

釧路市地域公共交通再編実施計画

(案)

令和元年 6 月

釧 路 市

目 次

1. 再編実施計画策定の目的	4
1) 背景	4
2) 目的	4
2. 再編実施計画の基本的な考え方	5
3. 再編実施事業を実施する区域	7
4. 再編実施計画で取り組む事業の内容	9
1) 事業概要	9
2) 路線再編 (STEP1)	12
鶴野ニュータウン線 (支線)	14
鶴野ニュータウン線 (直通)	16
山花リフレ線 (鶴野経由・支線)	18
山花リフレ線 (鶴野経由・直通)	20
山花リフレ線 (大楽毛経由・支線)	22
高専まりも線	24
白糖線 (系統2)	26
3) 路線再編 (STEP2)	28
昭和線 (阿寒バス・支線)	32
昭和線 (阿寒バス・直通)	34
昭和線 (くしろバス・支線)	36
昭和線 (くしろバス・直通)	38
阿寒本町線 (山花経由・支線)	40
阿寒本町線 (山花経由・直通)	42
大楽毛線 (阿寒バス)	44
(仮) 桂恋三ツ浦線	46
4) 阿寒、音別地域の生活交通	48
①阿寒地域	48
②音別地域	50
5) 乗換拠点の整備	52
6) 乗換割引券	53
7) 70 歳以上の運賃定額化	53
8) バス運賃の「WAON」決済	54
5. 事業の実施予定期間	55
6. 事業実施に必要な資金の額・調達の方法	56

7. 事業による効果.....	57
8. 網形成計画に関連して釧路市が実施する支援の内容.....	59
1) モビリティマネジメントの実施	59
2) 地元商店会等と連携したバス待合環境の整備.....	60
9. 今後継続的に検討を進める事業.....	61
10. 網形成計画における都市機能の増進に必要な立地の適正化に関する施策	62

本再編実施計画は、バス路線再編の計画条件が見通せる再編対象路線を抜粋したものであり、国土交通省には現行の運行を継続する路線や収支等を加えたものを提出する。

1. 再編実施計画策定の目的

1) 背景

国は、公共交通に関し「まちづくりと一体となった公共交通網の維持・発展を通じた地域の活性化」等を意識した「交通政策基本法」を 2013 年（平成 25 年）に施行し、これを踏まえ 2014 年（平成 26 年）には「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を改正することにより、持続可能な地域公共交通網の再構築の必要性を明確に打ち出している。一方、まちづくりにおいては、人口減少による集落や市街地の低密度化が、日常生活の利便性低下や地域経済の活力の低下、都市経営コストの増加等に繋がることから、まとまりのある市街地等を維持、形成するため、都市再生特別措置法を改正し、市町村が住宅や商業施設等の都市機能増進施設の誘導に関する「立地適正化計画」を作成できることとなった。この立地適正化計画では、生活サービス機能の計画的配置を図るエリア、まとまった居住の増進を図るエリアの設定と公共交通との一体的な位置付けが求められている。

このような中、釧路市では、限られた資源を社会情勢の変化に即応して柔軟かつ重点的に投資する「都市経営」の視点に基づき、「釧路市都市経営戦略プラン」を策定し様々な取組を行ってきた。公共交通については、モータリゼーションの進展等により周辺環境が厳しさを増すなか、公共交通維持に関する財政支出の増加や、運転手の確保、経営体力の維持といった交通事業者の課題が深刻化しており、市民の生活の足を持続的に確保するための早急かつ確実な取組が求められている。また、まちづくりにおいては、「釧路市コンパクトなまちづくりに関する基本的考え方」を 2012 年度（平成 24 年度）に策定し、この考え方を基礎にしながら「釧路市立地適正化計画」を 2016 年度（平成 28 年度）に策定したところである。

2) 目的

以上の背景や問題意識を踏まえ、釧路市では 2017 年（平成 29 年）6 月に、地域の公共交通網を形成するため、まちづくりとの連携、市民や交通事業者等との連携も盛り込んだマスタープランとして「釧路市地域公共交通網形成計画」を策定した。

「釧路市地域公共交通再編実施計画」（以下、「本計画」という）は、このマスタープランの理念や方針に基づいて地域の公共交通の再編を実施することを目的としており、具体的な路線や運行内容などを明らかにするものとして、2018 年（平成 30 年）3 月に作成した「釧路市地域公共交通再編実施計画の策定に関する基礎調査業務報告書」等に基づき本計画を定める。

2. 再編実施計画の基本的な考え方

《バス路線の主な問題》

- ・ バス路線は釧路駅前に向かって重複しており、駅前のバス通りでは便数が充実している一方、郊外部では便数が少ない箇所がある
- ・ バス路線が長いことなどにより運行時間が不正確となっている
- ・ 市内の住宅街を多く運行しているため、バス路線が煩雑でわかりにくい
- ・ バス終発時間やバス待合環境等に不満がある
- ・ バス利用者の減少等に伴い、市の負担は増加傾向にある（1年間で1.28億円の負担）

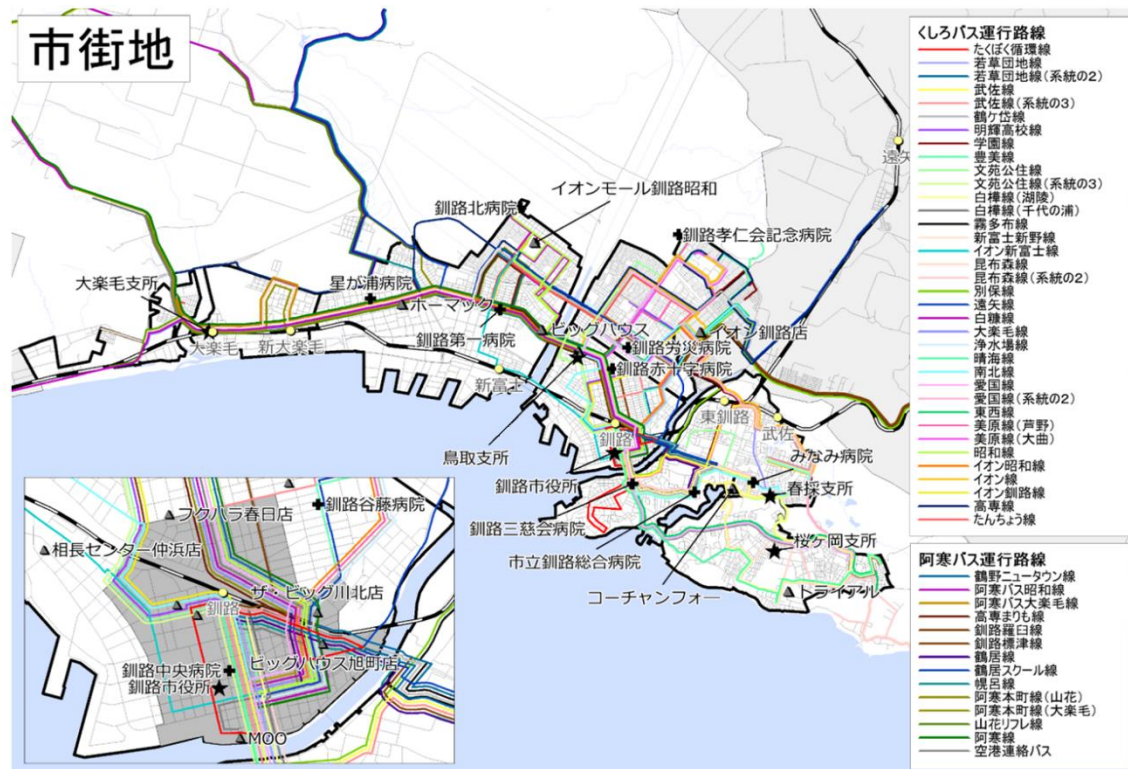


図. 釧路市（市街地）バス路線網

《主な取組》

市内の都市拠点を結ぶ公共交通軸の強化と乗換拠点の充実を図り、将来に渡って持続する公共交通網を形成します

市民にとってわかりやすく利用しやすい、また、将来に渡って持続可能なものとするため、都心部はバス路線を集約し（幹線バス）、郊外部のバス路線（支線バス）と乗換拠点で接続するメリハリのあるバス路線網へ再編

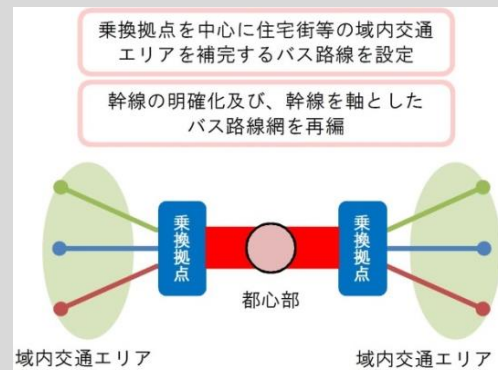


図. 都心部のバス路線の集約パターン

《バス路線網の再編計画の基本的な考え方》

- ・ まちづくりの動向を踏まえ、将来的には昭和、鳥取大通、市立病院、桜ヶ岡通に**乗換拠点**を整備し、その間の路線バスを束ね**幹線バス**を運行
- ・ まちづくりの進捗、計画条件の見通しを踏まえ順次運行を試し、**段階的（3段階）に運行サービスを高める**
- ・ 本実施計画は、計画条件が見通せる**STEP2 までの事業を対象とする**
- ・ STEP 2 までは、新たな幹線バスを導入せず、**既存の在来線**を活用する
- ・ 再編計画の対象路線（以下、再編路線）は、現行の経営基盤を支える路線やスクールバス、観光を支援する路線を除く**1 1 路線**が対象（乗換拠点等に乗入れる経路変更を含む）
- ・ 再編は通勤通学時間を除く時間帯に行う（一部、直通運行を残す）
- ・ 再編路線の乗換抵抗の緩和に向け、乗換拠点の待合環境の整備、乗換割引、乗り換え待ち時間に配慮したダイヤ設定を行う
- ・ 計画条件の変化が想定される**市立病院での乗り換え（STEP3）**は、計画がある程度確定した段階で**本実施計画を変更する**

《段階的に運行サービスを高めるバス路線網の再編計画の基本的な考え方》



再編実施計画はSTEP2までの運行計画を作成



3. 再編実施事業を実施する区域

本計画の実施区域は、釧路市全域を対象とする。

図 再編事業を実施する地域（全体路線図）

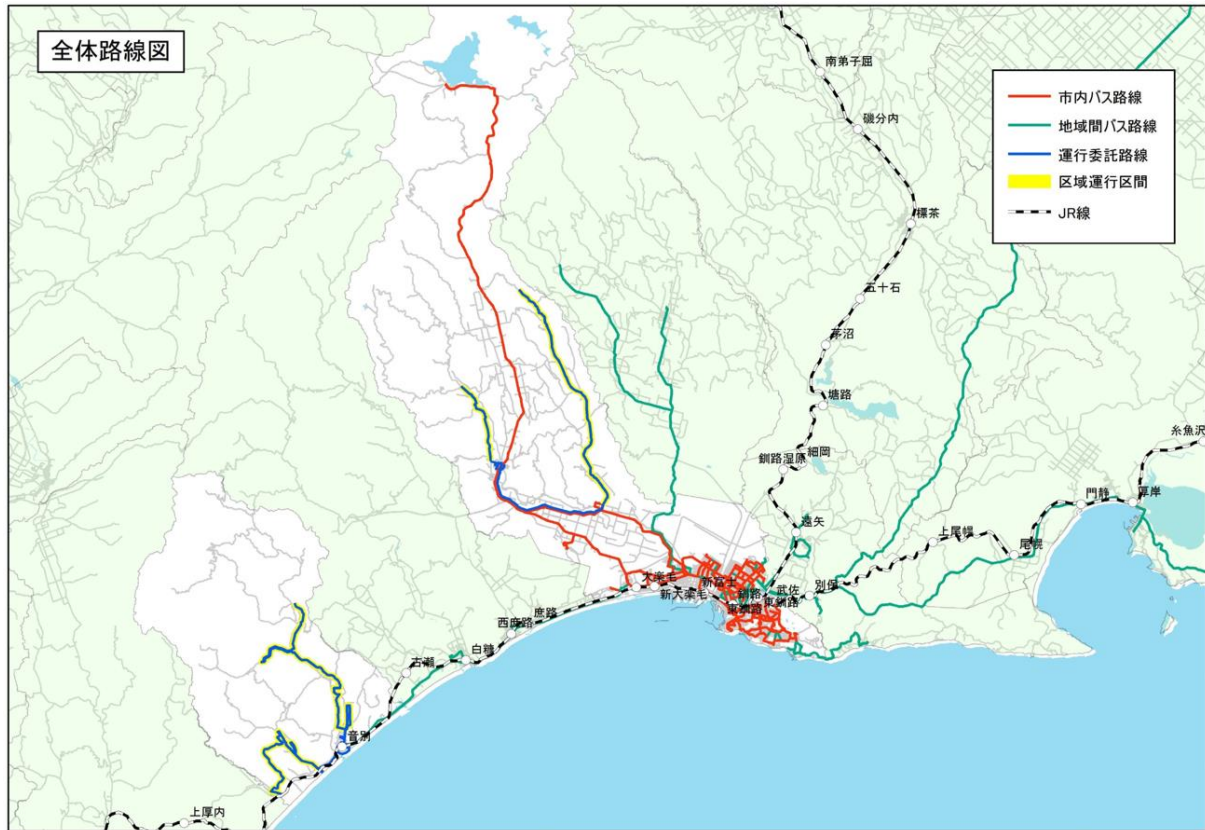


図 再編事業を実施する地域（釧路市街地）

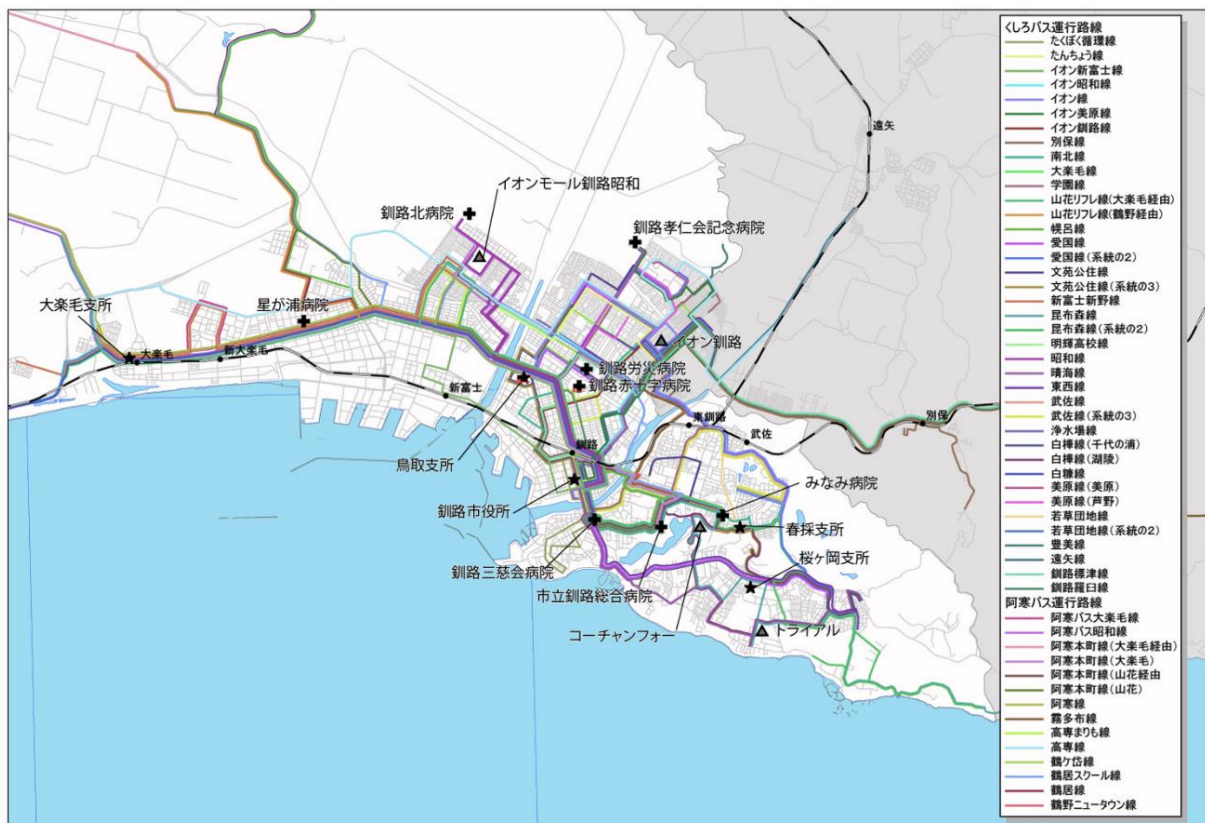


図 再編事業を実施する地域（阿寒地域）

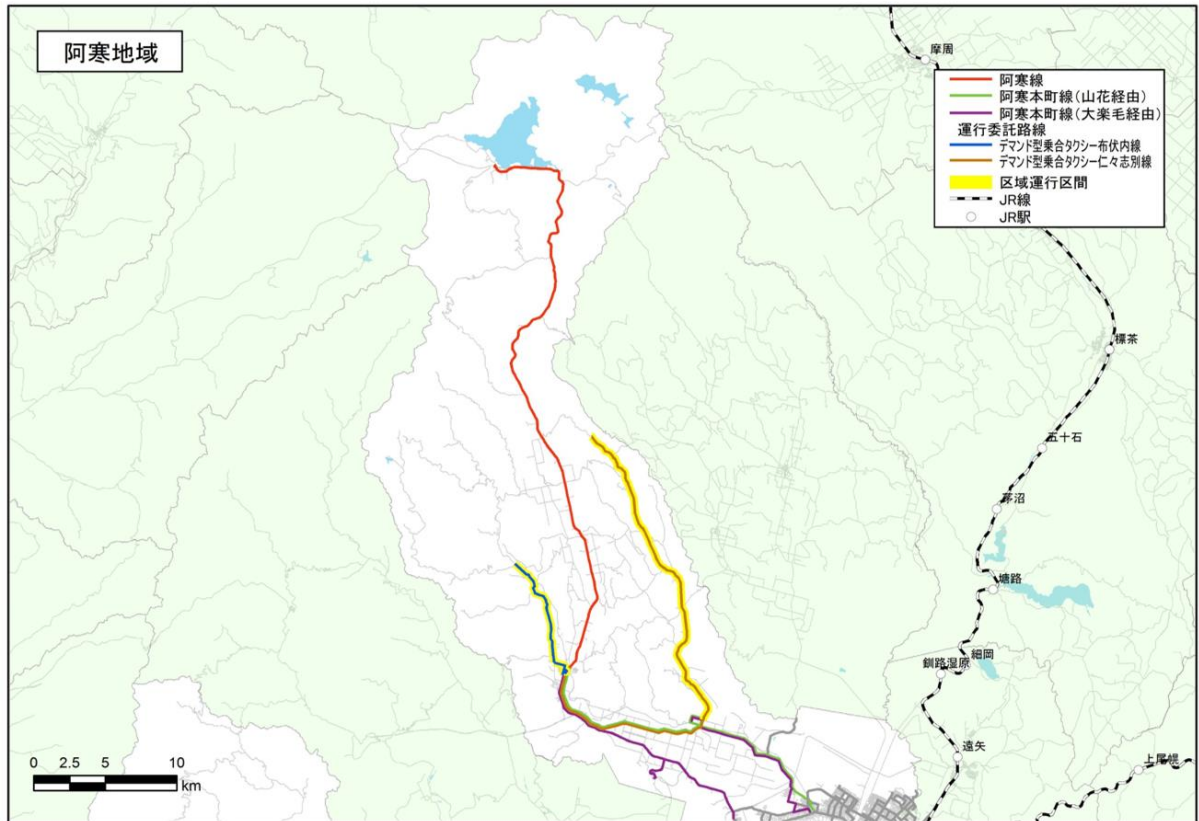
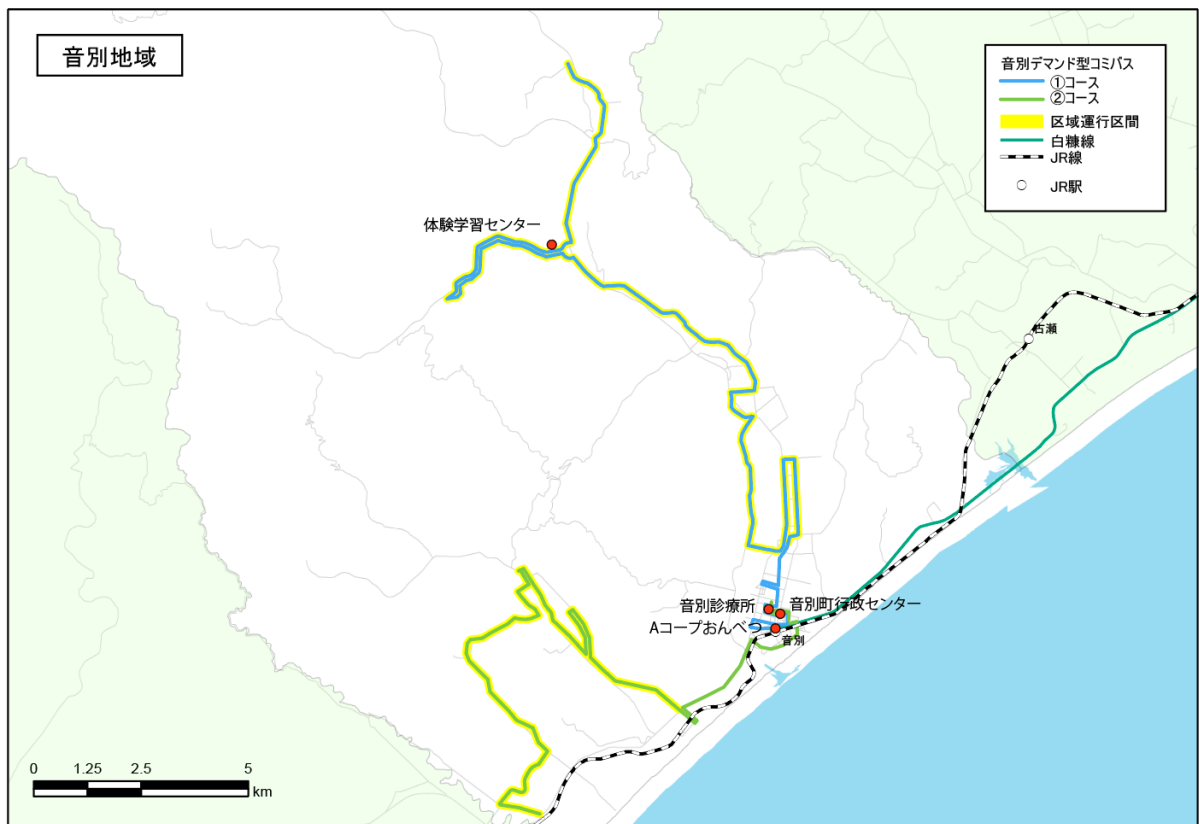


図 再編事業を実施する地域（音別地域）



4. 再編実施計画で取り組む事業の内容

1) 事業概要

地域公共交通網形成計画に位置付けた方針に基づき、本計画で実施する地域公共交通再編事業及び事業実施主体一覧を下表に示す。

表.地域公共交通再編事業及び事業主体

基本方針 1 市内拠点を中心とした公共交通軸の活性化と乗換拠点の機能強化による持続可能な公共交通網の形成

表.方針 1 に対する地域公共交通再編事業及び事業主体 (1/2)

今後の取組	施策項目		事業内容	実施主体
①わかりやすく、 効率よく拠点間 を連絡するバス 路線網への再編	路線再編	STEP1	鶴野ニュータウン線	阿寒バス(株)
			山花リフレ線(鶴野経由)	阿寒バス(株)
			山花リフレ線(大楽毛経由)	阿寒バス(株)
			高専まりも線	阿寒バス(株)
			白糖線(系統の2)	くしろバス(株)
		STEP2	昭和線	くしろバス(株)
			昭和線	阿寒バス(株)
			阿寒本町線(山花経由)	阿寒バス(株)
			大楽毛線(阿寒バス)	阿寒バス(株)
			昆布森線→(仮称)桂恋三ツ浦線	タクシー事業者
			幌呂線	阿寒バス(株)
	現状維持		新富士新野線	くしろバス(株)
			阿寒本町線(大楽毛経由)	阿寒バス(株)
			南北線	くしろバス(株)
			若草団地線	くしろバス(株)
			武佐線	くしろバス(株)
			霧多布線	くしろバス(株)
			白糖線	くしろバス(株)
			釧路羅臼線	阿寒バス(株)
			阿寒線	阿寒バス(株)
			たくぼく循環線	くしろバス(株)
			若草団地線(系統の2)	くしろバス(株)
			武佐線(系統の3)	くしろバス(株)
			鶴ヶ岱線	くしろバス(株)

表.方針 1 に対する地域公共交通再編事業及び事業主体 (2/2)

今後の取組	施策項目	事業内容	実施主体
①わかりやすく、 効率よく拠点間 を連絡するバス 路線網への再編	現状維持	明輝高校線	くしろバス(株)
		学園線	くしろバス(株)
		文苑公住線	くしろバス(株)
		文苑公住線(系統の2)	くしろバス(株)
		昆布森線(系統の2)	くしろバス(株)
		白樺線(湖陵)	くしろバス(株)
		白樺線(千代の浦)	くしろバス(株)
		愛国線	くしろバス(株)
		愛国線(系統の2)	くしろバス(株)
		東西線	くしろバス(株)
		美原線(大曲)	くしろバス(株)
		昭和線(系統の2)	くしろバス(株)
		イオン昭和線	くしろバス(株)
		イオン線	くしろバス(株)
		イオン釧路線	くしろバス(株)
		高専線	くしろバス(株)
		浄水場線	くしろバス(株)
		釧路標津線	阿寒バス(株)
		鶴居線	阿寒バス(株)
		たんちょう線	くしろバス(株)
		晴海線	くしろバス(株)
		美原線(芦野)	くしろバス(株)
		大楽毛線	くしろバス(株)
		イオン新富士線	くしろバス(株)
		別保線	くしろバス(株)
		遠矢線	くしろバス(株)
		豊美線	くしろバス(株)
		イオン美原線	くしろバス(株)
		別保線(系統の3)	くしろバス(株)
②乗換拠点の機 能充実	乗換拠点の整備	イオン昭和店の待合環境の整備	釧路市 民間事業者
		スーパーアークスの建替えに合わせたバス乗降場、待合環境の整備	釧路市 民間事業者
③市内拠点等を 結ぶ地域や利用 者ニーズに応じ た効果的なバス 運行の実施	市民の主要な目的 地へのバス路線の 配置(経路変更)	昭和線	くしろバス(株) 阿寒バス(株)
		昆布森線→(仮称)桂恋三ツ浦線	タクシー事業者
	住宅地と乗換拠点 をつなぐバス路線 の配置(経路変更)	高専まりも線	阿寒バス(株)

基本方針 2 迷わず乗れる、快適に乗れる公共交通の利用環境整備

表.方針 2 に対する地域公共交通再編事業及び事業主体

今後の取組	施策項目	事業内容	実施主体
①使いやすくわかりやすい運賃体系の構築	複数路線の利用を前提とした運賃体系や運行ダイヤの導入	乗換割引券の導入	釧路市バス会社
		乗り換えに配慮したダイヤ編成	バス会社
②円滑な運賃支払い方法の推進	市内バス交通の積極的な利用を促す運賃支払い等	70 歳以上を対象とした定額運賃の導入	釧路市バス会社
		WAON 等の電子カードによる運賃支払いの充実	
④交通拠点等でのわかりやすい情報案内・誘導の実施	交通拠点等におけるわかりやすい乗場案内等の情報提供・誘導の実施	スムーズな乗り換えを促すため、ＪＲ釧路駅や乗換拠点等におけるバス乗場案内等の改善	釧路市 民間事業者

基本方針 4 交通不便地域における効率的で利便性の高い生活交通の確保

表.方針 4 に対する地域公共交通再編事業及び事業主体

今後の取組	施策項目	事業内容	実施主体
①生活交通の導入検討	交通不便地域における生活交通の導入、確保	・阿寒仁々志別線のデマンド型乗合タクシーへの転換 ・音別線（市町村有償旅客運送（デマンド型））の導入	釧路市 タクシー事業者
②スクールバス、患者輸送バス等の活用検討			

2) 路線再編 (STEP1)

STEP 1 における路線再編の対象は以下のとおりであり、イオン昭和店を乗換拠点に、支線系路線と在来の路線バスによるゾーンバス化を実施する。

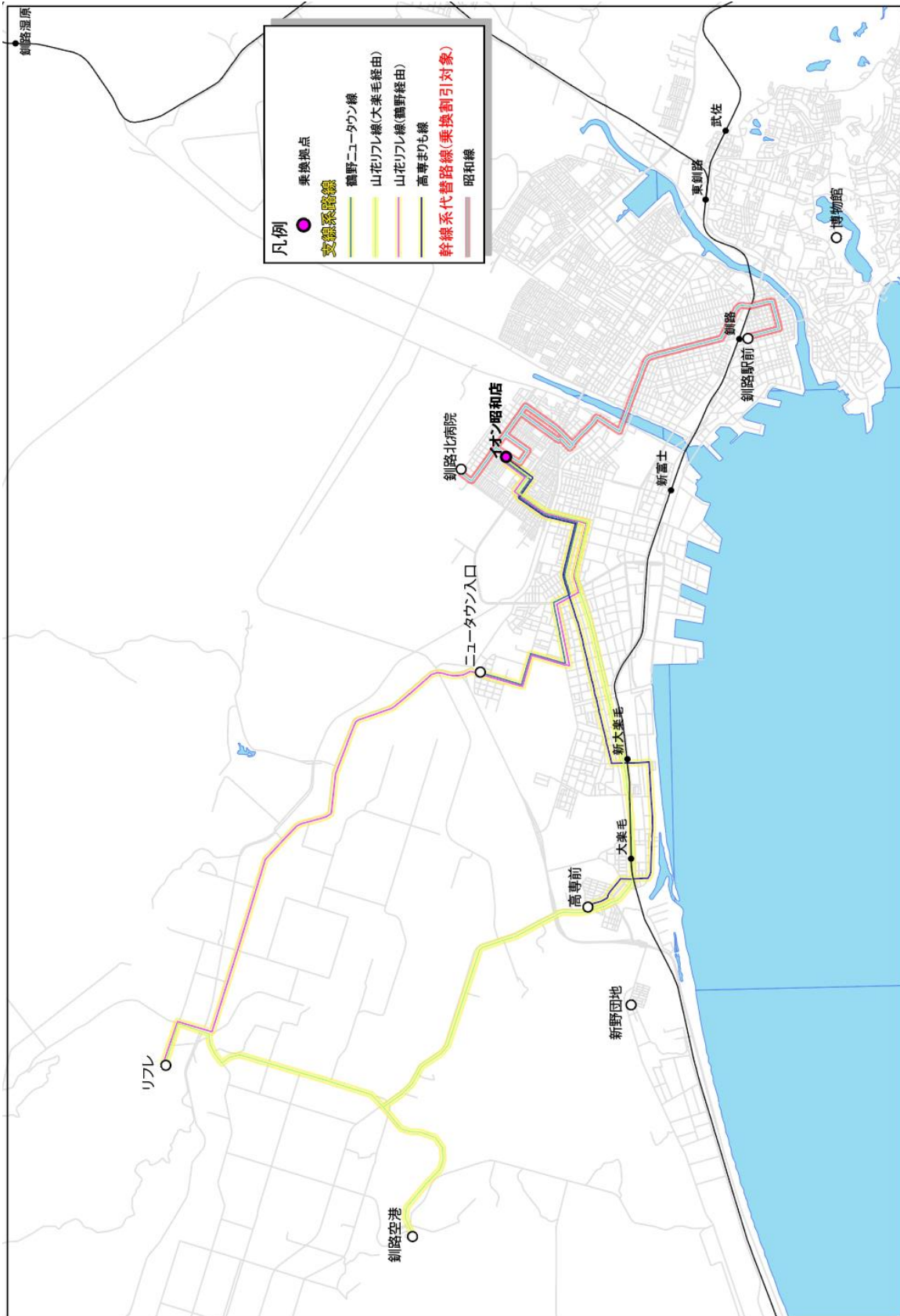
図.STEP1 路線再編パターン図



乗換拠点	イオン昭和店
幹線系を代替する在来線 (現状維持路線)	◇昭和線
支線系路線	◇鶴野ニュータウン線 ◇山花リフレ線 [鶴野経由] ◇山花リフレ線 [大楽毛経由] ◇高専まりも線

◆くしろバス ◇阿寒バス

図.STEP1 再編後の路線図



鶴野ニュータウン線（支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 鶴野ニュータウン線（釧路駅、市立病院発着）は運行距離が長く、特にイオン昭和店以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題となっている。 【再編の方向性】 イオン昭和店を乗換拠点として路線を分割し、イオン昭和店から鶴野ニュータウンまでを支線とした役割分担により運行を効率化するとともに、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 なお一部の通勤通学時間帯の便は直通運行を継続する。
起点	イオン昭和店
主な経由地	鶴野小学校
終点	ニュータウン入口
運行距離	イオン昭和店→鶴野小学校→ニュータウン入口：6.3 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2～4 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考	
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧		
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設	
		往	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-		-
		復	1～2	2	0	1	1～2	1	-	-	-		-
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-
		復	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-		-
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-
		復	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-		-

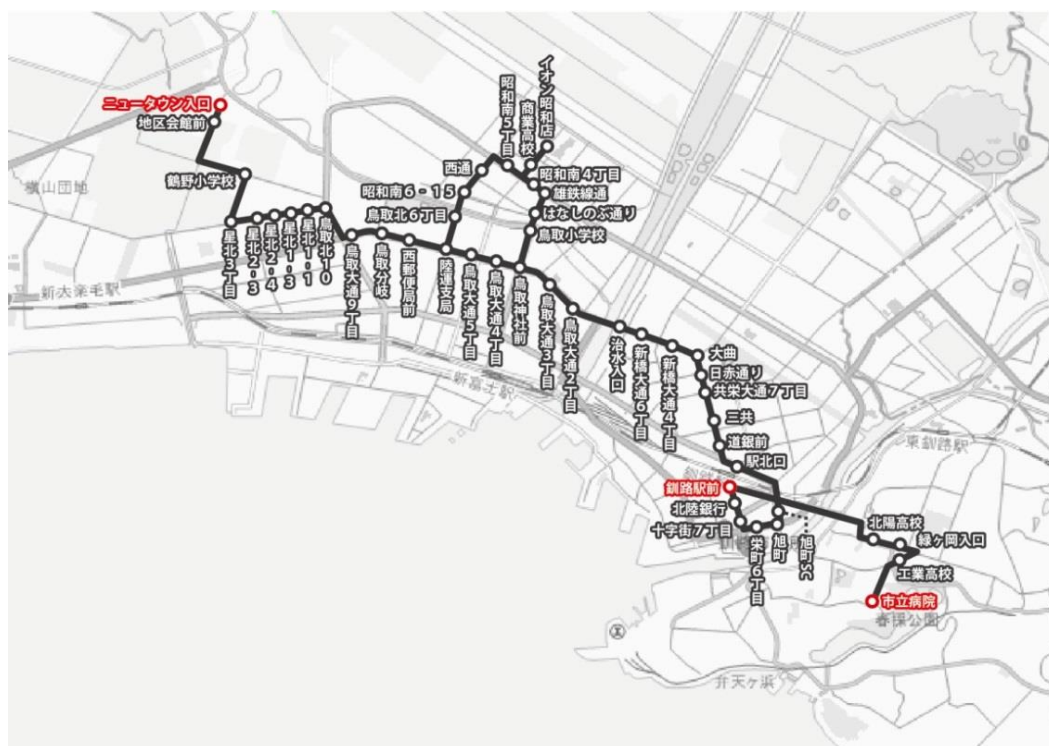
③運賃

復	1 3	2 2	3 1	往	
					イオン昭和店
					150
					150
ニュータウン入口	鶴野小学校	鳥取大通9丁目	陸運支局		170
					210
					150
					220

④系統運行図

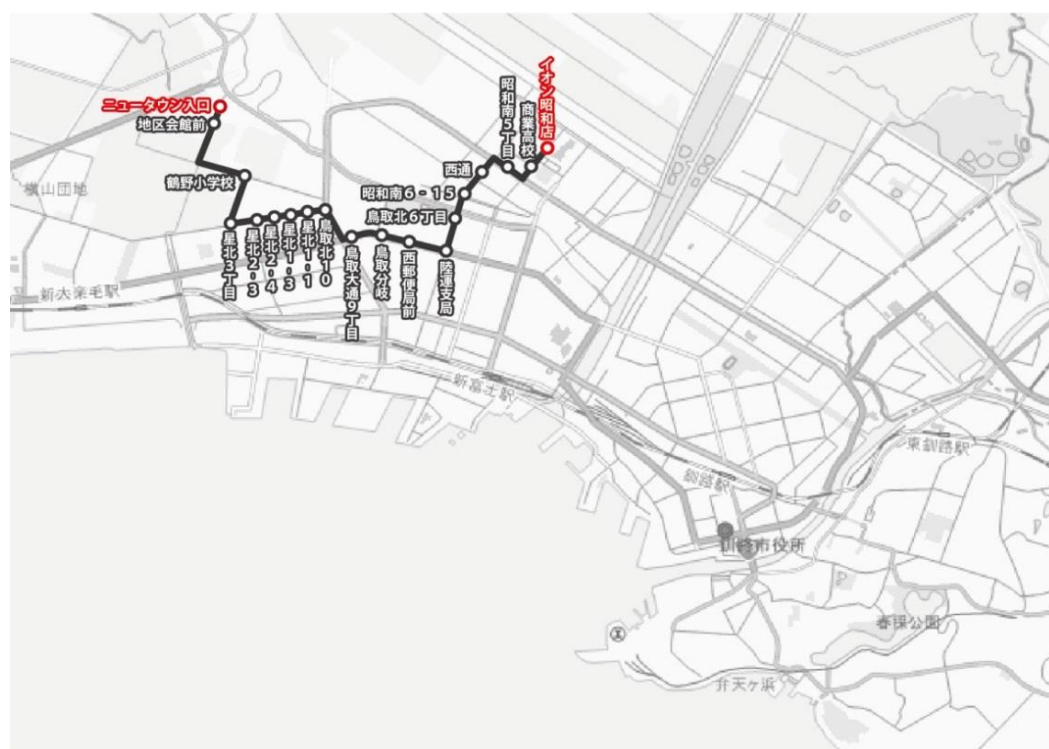
現況

路線延長
14.3 km



再編後

路線延長
6.3 km



鶴野ニュータウン線（直通）

①運行概要

運行のねらい	鶴野ニュータウン線は、前述のとおり支線化していくが、一部の通勤通学時間帯の便を直通運行として継続する。
起点	市立病院
主な経由地	鶴野小学校、釧路駅
終点	ニュータウン入口
運行距離	市立病院→釧路駅→鶴野小学校→ニュータウン入口：14.3 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	1 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考	
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧		
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設	
		往	0	1	-	-	0	1	-	-	-		-
		復	1	2	1	1	0	1	-	-	-		-
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	0	-	-	-	-	-	-	-	-		-
		復	0	1	-	-	0	1	-	-	-		-
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	0	-	-	-	-	-	-	-	-		-
		復	0	1	-	-	0	1	-	-	-		-

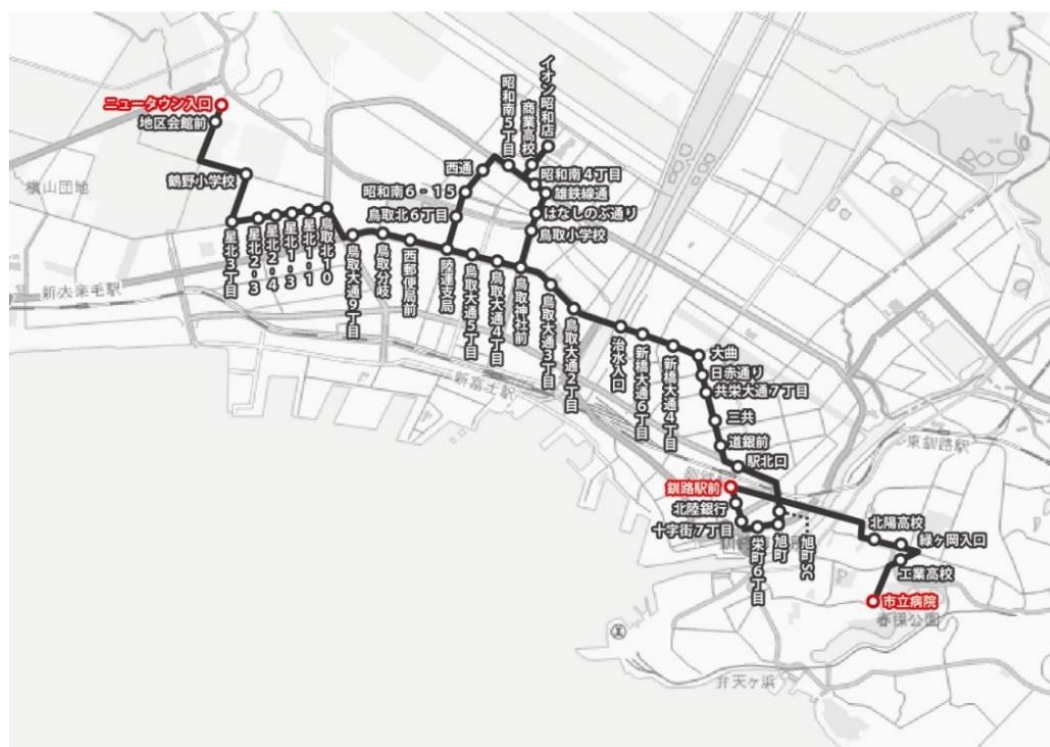
③運賃

復	1 3	2 2	3 1	往 釧路駅前
ニュータウン入口	鳥取大通9丁目	イオン昭和店	日赤通	220
				270
				370
				360
	150	220	330	430

④系統運行図

現況

路線延長
14.3 km



山花リフレ線（鶴野経由・支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 山花リフレ線（釧路駅発着）は運行距離が長く、特にイオン昭和店以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 イオン昭和店を乗換拠点として路線を分割し、イオン昭和店から山花リフレまでを支線とした役割分担により運行を効率化するとともに、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 なお一部の直通ニーズの高い便は直通運行を継続する。
起点	イオン昭和店
主な経由地	鶴野小学校
終点	山花温泉リフレ
運行距離	イオン昭和店→鶴野小学校→山花温泉リフレ：16.7 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2～4 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考	
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧		
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設	
		往	1～2	2	-	-	1～2	2	-	-	-		-
		復	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-		-
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	1～2	2	-	-	1～2	2	-	-	0		-
		復	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	0		-
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	1～2	2	-	-	1～2	2	-	-	0		-
		復	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	0		-

③運賃

山花温泉リフレ	復	北斗	鶴野小学校	鳥取分岐	往 イオン昭和店	
						3
						2
						1
						170
						210
						470
						700

④系統運行図

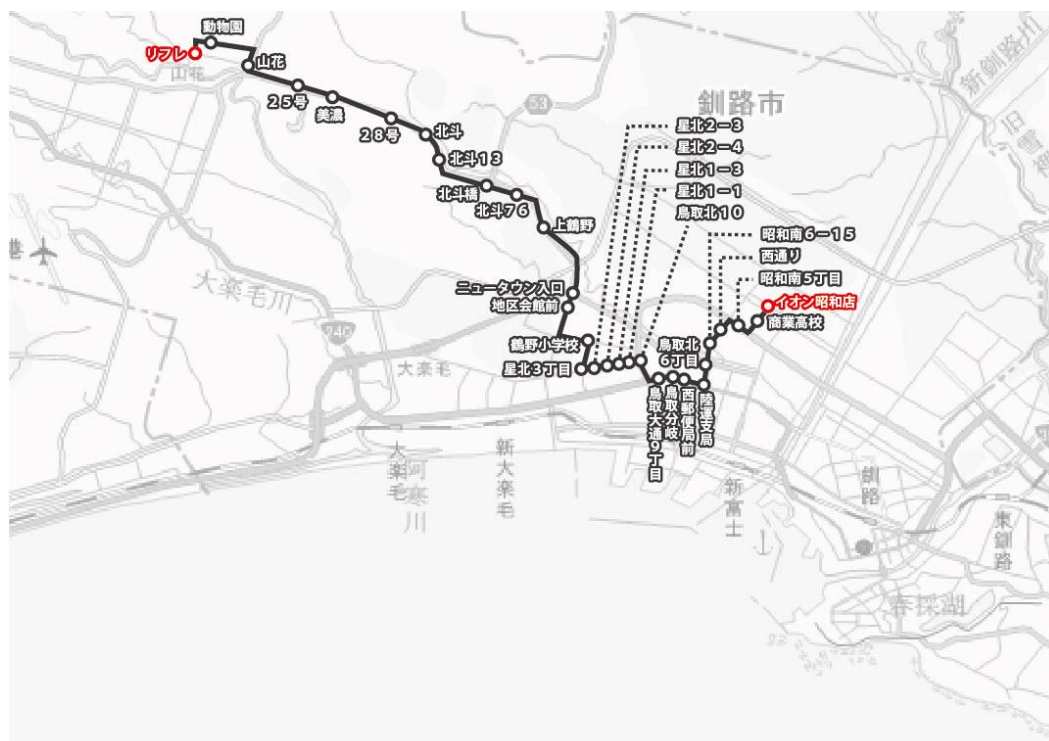
現況

路線延長
24.1 km



再編後

路線延長
16.7 km



山花リフレ線（鶴野経由・直通）

①運行概要

運行のねらい	山花リフレ線（鶴野経由）は、前述のとおり支線化していくが、一部の直通二ーズの高い便は直通運行を継続する。
起点	釧路駅前
主な経由地	鶴野小学校
終点	山花温泉リフレ
運行距離	イオン昭和店→鶴野小学校→山花温泉リフレ：24.1 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	1 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
	往	1	2	-	-	1	2	-	-	-	-	
	復	0	1	-	-	0	1	-	-	-	-	
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1	2	-	-	1	2	-	-	-	-	
	復	0	1	-	-	0	1	-	-	-	-	
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1	2	-	-	1	2	-	-	-	-	
	復	0	1	-	-	0	1	-	-	-	-	

③運賃

			3	往 釧路駅前	
			1		
復	1	2	治水入口		
	3	2			
	山花温泉リフレ	鶴野小学校	西通		230
				220	370
210			240	420	
	460	700	710	870	

現況	
----	--

路線延長
24.1 km



山花リフレ線（大楽毛経由・支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 山花リフレ線（釧路駅発着）は運行距離が長く、特にイオン昭和店以西の間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 イオン昭和店を乗換拠点として路線を分割し、イオン昭和店から山花リフレまでを支線とした役割分担により運行を効率化するとともに、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 ※既存の山花リフレ線（釧路駅発着）は廃止する。
起点	イオン昭和店
主な経由地	大楽毛駅前
終点	山花温泉リフレ
運行距離	イオン昭和店→大楽毛駅前→山花温泉リフレ：26.4 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2～5 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
	往	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-	-	
	復	1～3	2	-	-	1～3	2	-	-	-	-	
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-	-	
	復	1～3	2	-	-	1～3	2	-	-	-	-	
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-	-	
	復	1～3	2	-	-	1～3	2	-	-	-	-	

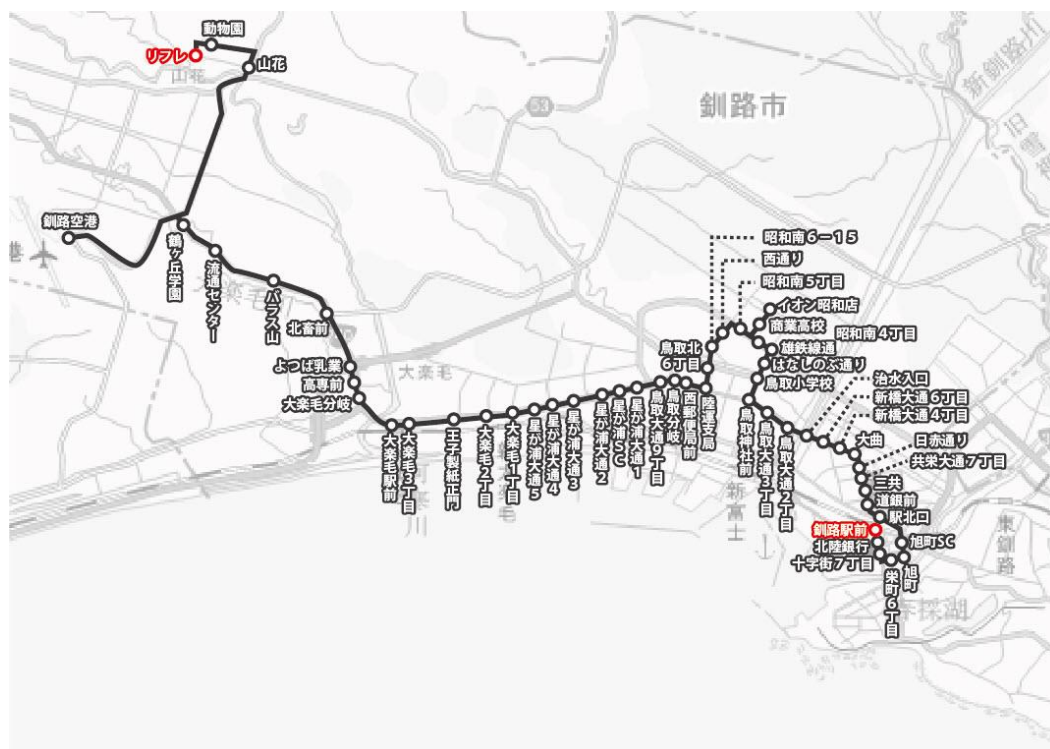
③運賃

復	山花温泉リフレ	1 3	星が浦大通 4 丁目	2 2	鶴野小学校	3 1	鳥取分岐	往 イオン昭和店
								170
							220	220
				170		260		330
		420		450		600		700

④系統運行図

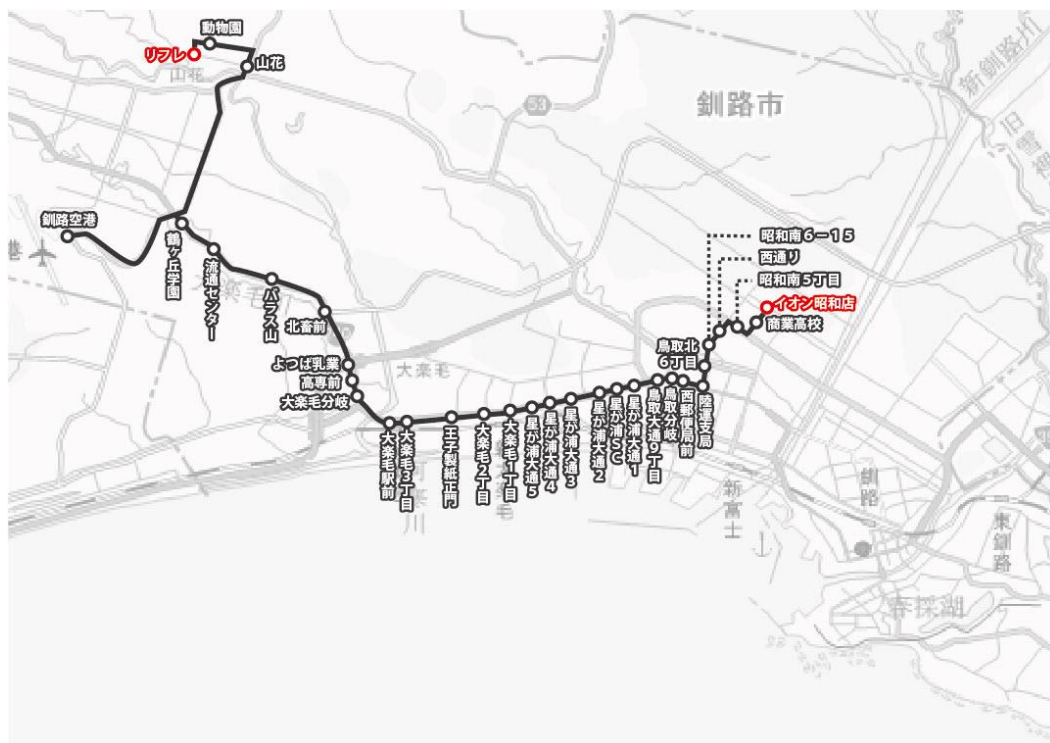
現況

路線延長
33.8 km



再編後

路線延長
26.4 km



高専まりも線

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 高専まりも線は運行距離が長く、特にイオン昭和店以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 イオン昭和店を乗換拠点として路線を分割し、イオン昭和店から高専前までを支線とした役割分担により運行を効率化するとともに、利便性を高めるため、大楽毛駅南側へのルート変更、増便を実施し、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 ※既存の高専まりも線（釧路駅発着）は廃止する。
起点	イオン昭和店
主な経由地	大楽毛駅前
終点	高専前
運行距離	イオン昭和店→大楽毛駅前→高専前：10.0 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2～6 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
	往	1～3	1	-	-	1～3	1	-	-	-	-	
	復	1～3	1	-	-	1～3	1	-	-	-	-	
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～3	1	-	-	1～3	1	-	-	-	-	
	復	1～3	1	-	-	1～3	1	-	-	-	-	
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～3	1	-	-	1～3	1	-	-	-	-	
	復	1～3	1	-	-	1～3	1	-	-	-	-	

③運賃

高専前	大楽毛駅前	星が浦大通 3丁目	運輸支局前	往
				イオン昭和店
				150
				190
復	大楽毛駅前	星が浦大通 3丁目	運輸支局前	200
				330
				360
高専前	大楽毛駅前	星が浦大通 3丁目	運輸支局前	360
				360
				360

④系統運行図

現況

路線延長
17.4 km



再編後

路線延長
10.0 km



白糠線（系統の2）

①運行概要

運行のねらい	【再編の方向性】 釧路地域と音別地域を結ぶ幹線路線として、音別駅構内へ乗り入れ、音別線（市町村有償旅客運送）との接続も考慮して利便性を高める。
起点	音別駅
主な経由地	大楽毛駅前
終点	釧路駅前
運行距離	音別駅→大楽毛駅前→釧路駅前：46.7 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	4～11 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
	往	2～6	4	-	-	1～3	2	1～3	2	-	-	
	復	2～5	3	1～2	1	1～3	2	-	-	-	-	
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	2～4	2	-	-	1～2	1	1～2	1	-	-	
	復	1～2	1	1～2	1	-	-	-	-	-	-	
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	2～4	2	-	-	1～2	1	1～2	1	-	-	
	復	1～2	1	1～2	1	-	-	-	-	-	-	

③運賃

音別駅	復	1 3	2 2	3 1	往 釧路駅前
小学校前	復	1 3	2 2	3 1	往 釧路駅前
庶路支所前	復	1 3	2 2	3 1	往 釧路駅前
鳥取分岐	復	1 3	2 2	3 1	往 釧路駅前
音別駅	復	1 3	2 2	3 1	往 釧路駅前

③系統運行図

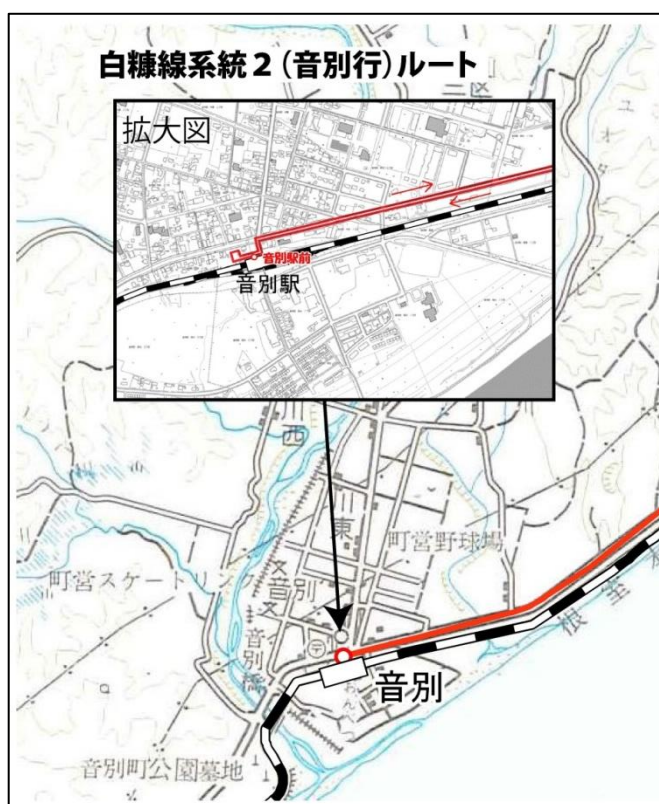
現況

路線延長
46.6 km



再編後

路線延長
46.7 km



3) 路線再編 (STEP2)

STEP 2 における路線再編の対象は以下のとおりであり、①スーパーアークス（鳥取大通 2 丁目バス停）、②桜ヶ岡通の各乗換拠点に加え、③鶴居線との重複区間における支線系路線と在来の路線バスによるゾーンバス化を実施する。

図.STEP 2 路線再編パターン図



乗換拠点等	①スーパーアークス	②桜ヶ岡通	③鶴居線と幌呂線の重複・分岐点
幹線系を代替する在来線 (現状維持路線)	◆白糠線 ◇大湊毛線 ◇鶴居線	◆白樺線 ◆晴海線	◇鶴居線
支線系路線	◆昭和線 (くしろバス) ◇昭和線 (阿寒バス) ◇阿寒本町線	○(仮称)桂恋三ツ浦線 ⇒現行の昆布森線における、桜ヶ岡～三ツ浦間	◇幌呂線

◆くしろバス ◇阿寒バス

図.STEP2 ①スーパーアークスを乗換拠点とした再編後の路線図

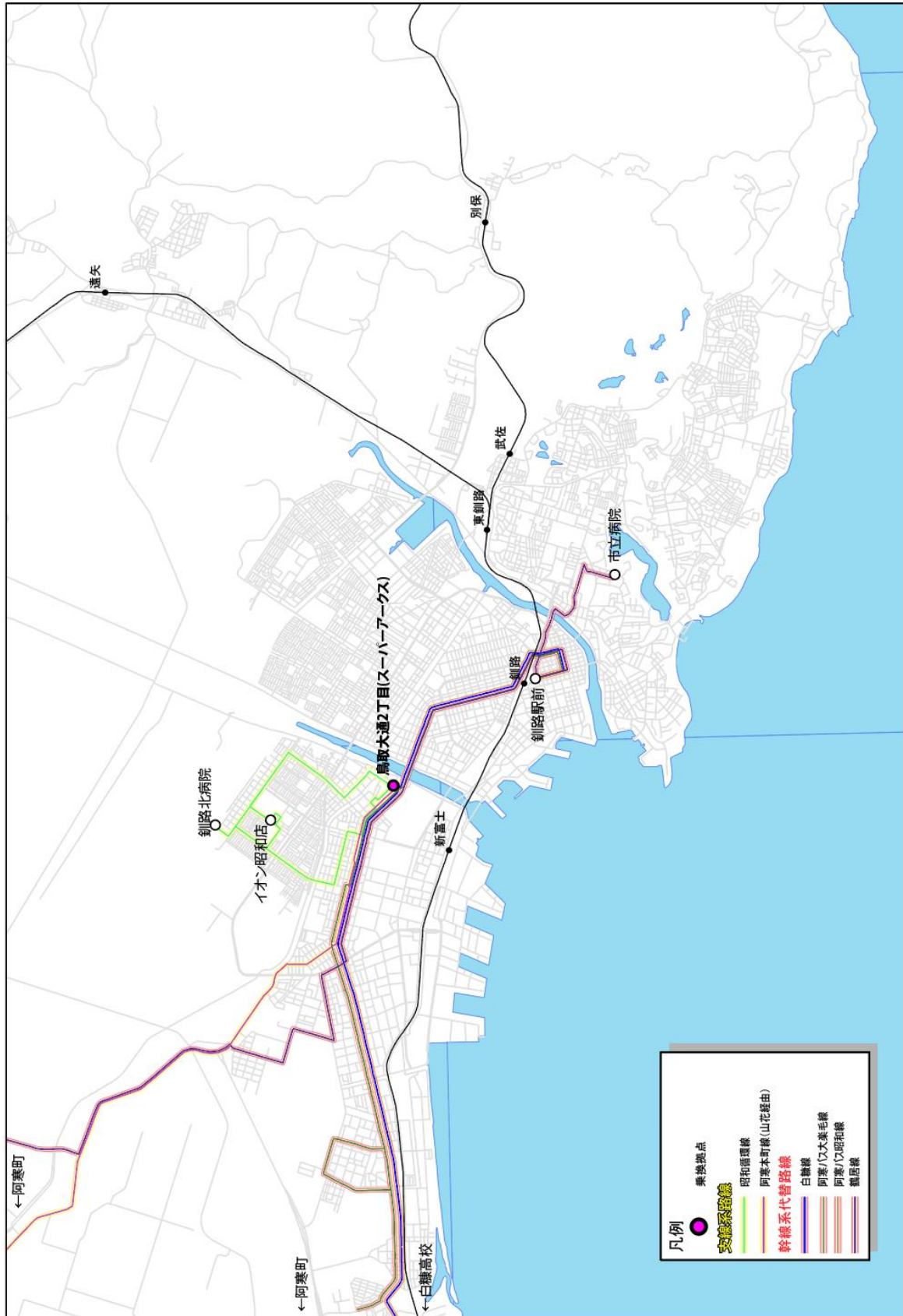


図.STEP 2 ②桜ヶ岡通を乗換拠点とした再編後の路線図

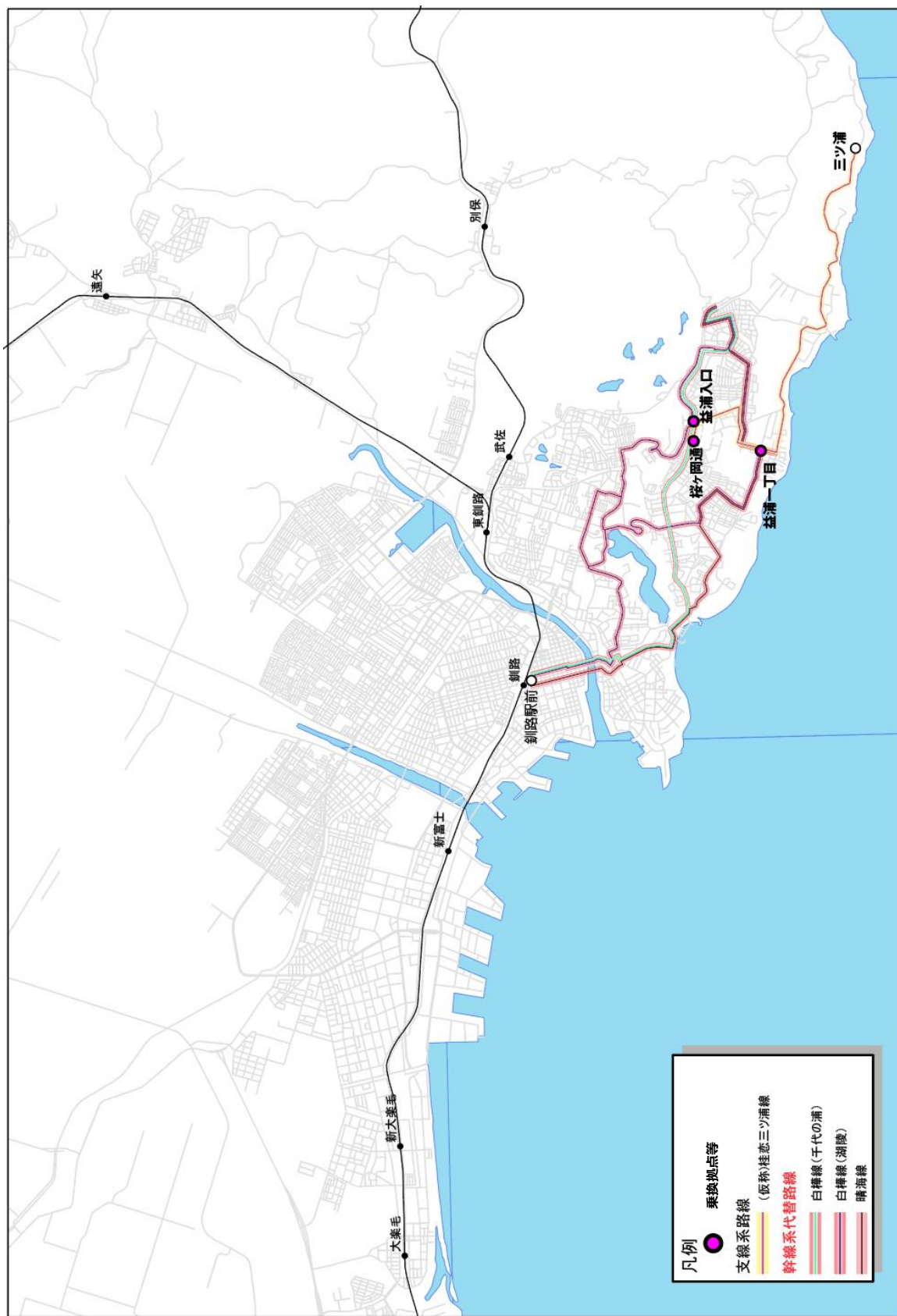
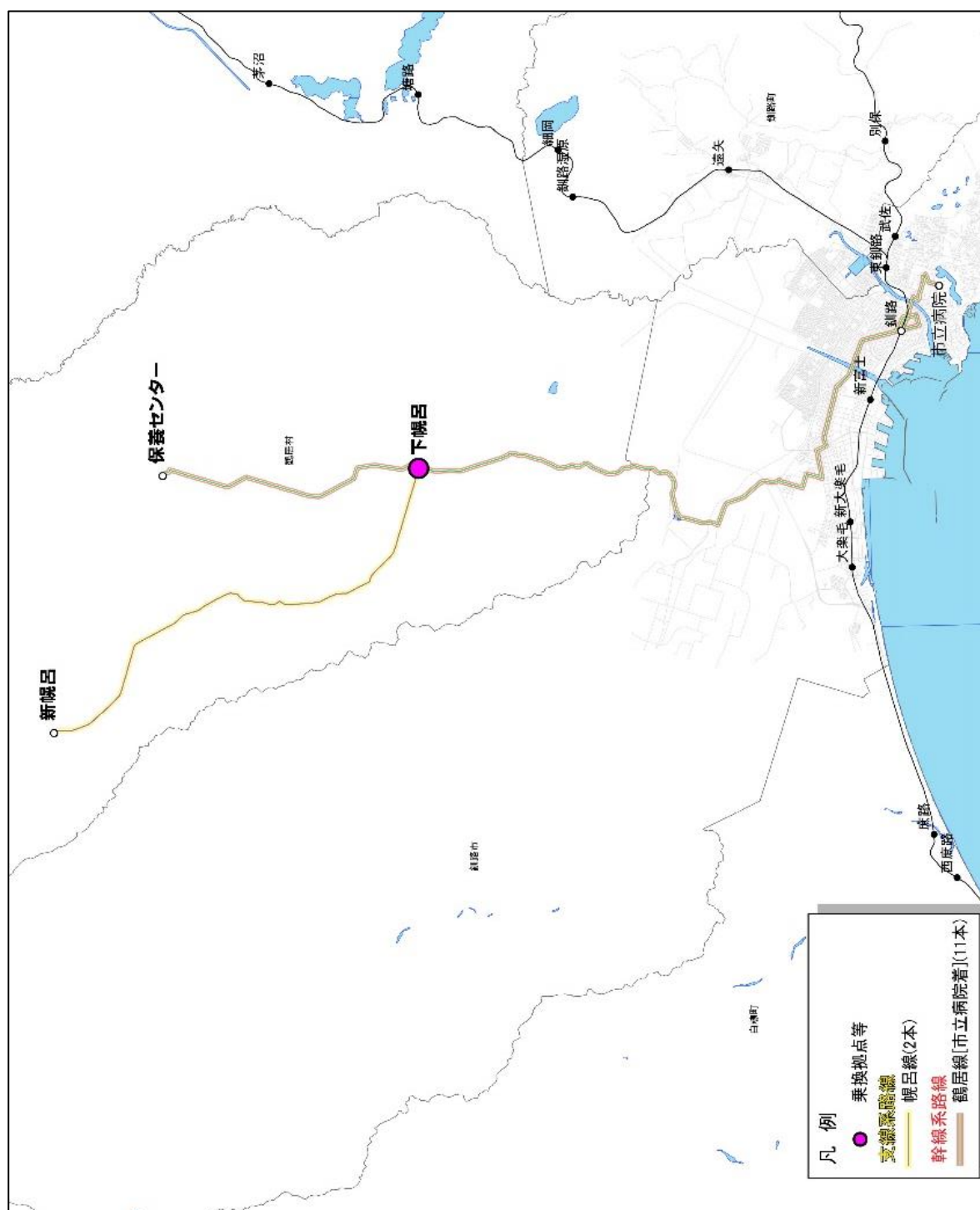


図.STEP 2 ③鶴居線と重複する幌呂線の再編後の路線図



昭和線（阿寒バス・支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 昭和線（釧路駅発着）は運行距離が長く、特に鳥取大通2丁目（スーパーアークス）以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 スーパーアークスを乗換拠点として路線を分割し、スーパーアークス、イオン昭和店、釧路北病院を結ぶ循環線を支線とした役割分担により運行を効率化するとともに、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 なお幹線系路線としての直通運行を継続する。
起点	鳥取大通2丁目
主な経由地	イオン昭和店、釧路北病院前
終点	鳥取大通2丁目
運行距離	鳥取大通2→イオン昭和店→釧路北病院前→鳥取大通2：11.4 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2～6便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考	
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧		
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設	
		往	1～3	6	0	1	1～3	3	0	2	-		-
		復	1～3	6	0	1	1～3	3	0	2	-		-
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	1～3	5	-	-	1～3	3	0	2	-		-
		復	1～3	5	0	1	1～3	3	0	1	-		-
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～			
		往	1～3	5	-	-	1～3	3	0	2	-		-
		復	1～3	5	0	1	1～3	3	0	1	-		-

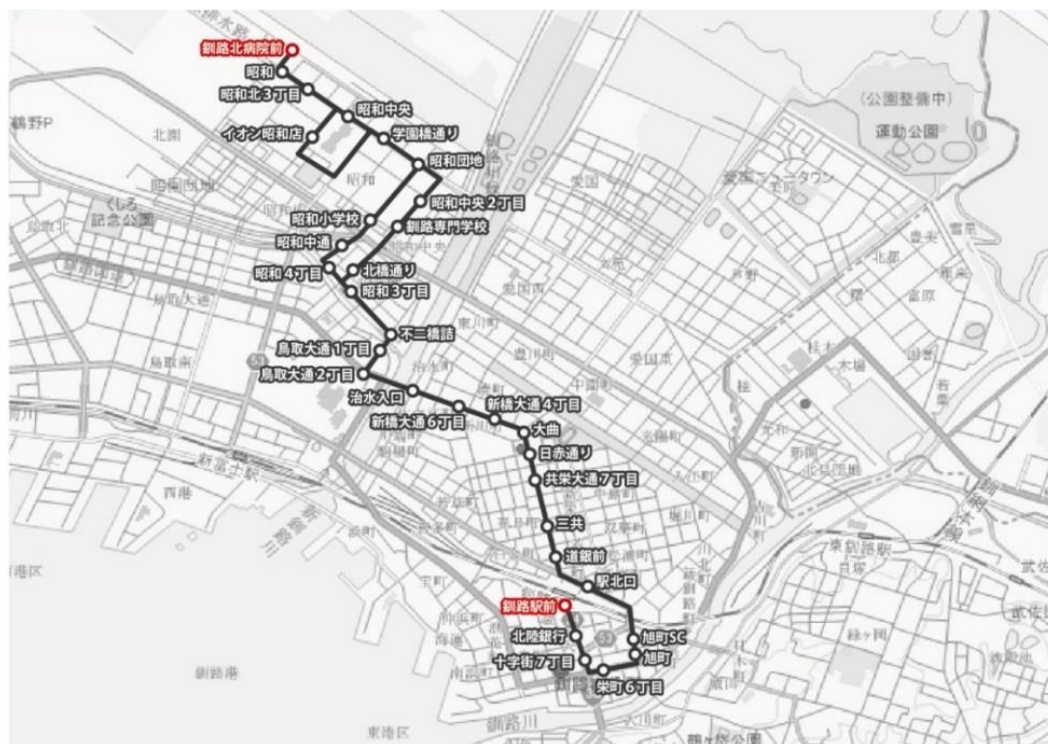
③運賃

復	釧路北病院前	イオン昭和店	昭和団地	北橋通	往 鳥取大通2丁目
					150
					170
					210
復	釧路北病院前	イオン昭和店	昭和団地	北橋通	往 鳥取大通2丁目
					230

④系統運行図

現況

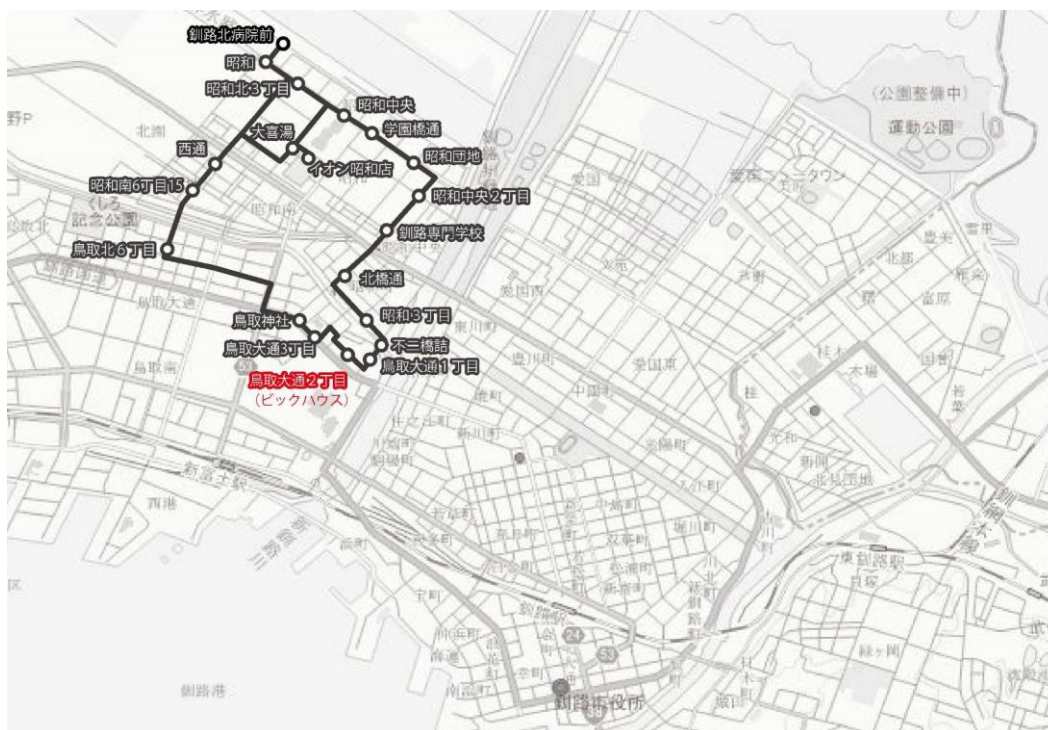
路線延長
11.2 km



再編後

路線延長
11.4 km

差
(+0.2 km)



昭和線（阿寒バス・直通）

①運行概要

運行のねらい	【再編の方向性】 STEP1（乗換拠点：イオン昭和店）の幹線系路線として再編時間帯はイオン昭和店経由とした上、運行本数を増便し、通勤通学時間は直通運行を継続する。
起点	釧路駅
主な経由地	イオン昭和店
終点	釧路北病院前
運行距離	釧路駅→イオン昭和店→釧路北病院前：9.7 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	10～18 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
	往	5～9	6	1	1	3～5	3	1～3	2	-	-	
	復	5～9	6	1	1	3～5	3	1～3	2	-	-	
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	4～8	5	0	0	3～5	3	1～3	2	-	-	
	復	5～8	5	1	1	3～5	3	1～2	1	-	-	
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	4～8	5	0	0	3～5	3	1～3	2	-	-	
	復	5～8	5	1	1	3～5	3	1～2	1	-	-	

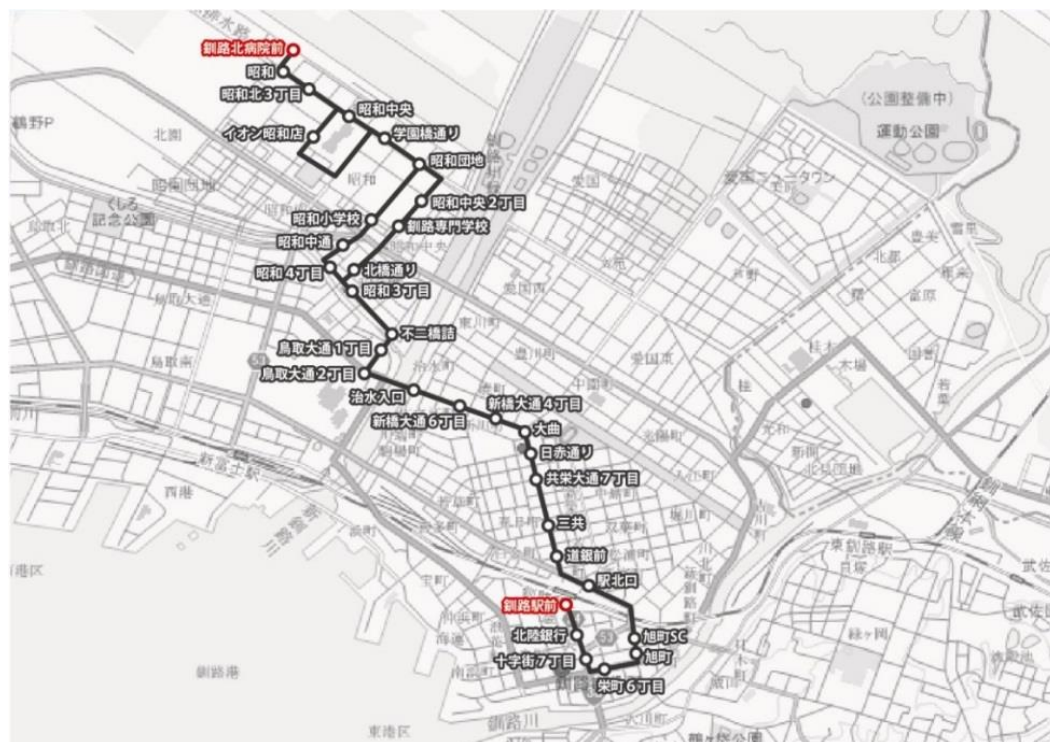
③運賃

釧路北病院前	イオン昭和店	鳥取大通 2 丁目	日赤通	往 釧路駅前
				220
				210
				260
復	1 3	2 2	3 1	220
150	230	300	400	

④系統運行図

現況

路線延長
9.7 km



昭和線（くしろバス・支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 昭和線（釧路駅発着）は運行距離が長く、特に鳥取大通2丁目（ビッグハウス）以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 スーパーアークスを乗換拠点として路線を分割し、スーパーアークス、イオン昭和店、釧路北病院を結ぶ循環線を支線とした役割分担により運行を効率化するとともに、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 なお一部の通勤通学時間帯の便は直通運行を継続する。
起点	鳥取大通2丁目
主な経由地	イオン昭和店、釧路北病院前
終点	鳥取大通2丁目
運行距離	鳥取大通2丁目→イオン昭和店→釧路北病院前→鳥取大通2丁目：11.4 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2～6便程度
運賃	対距離制タイプ

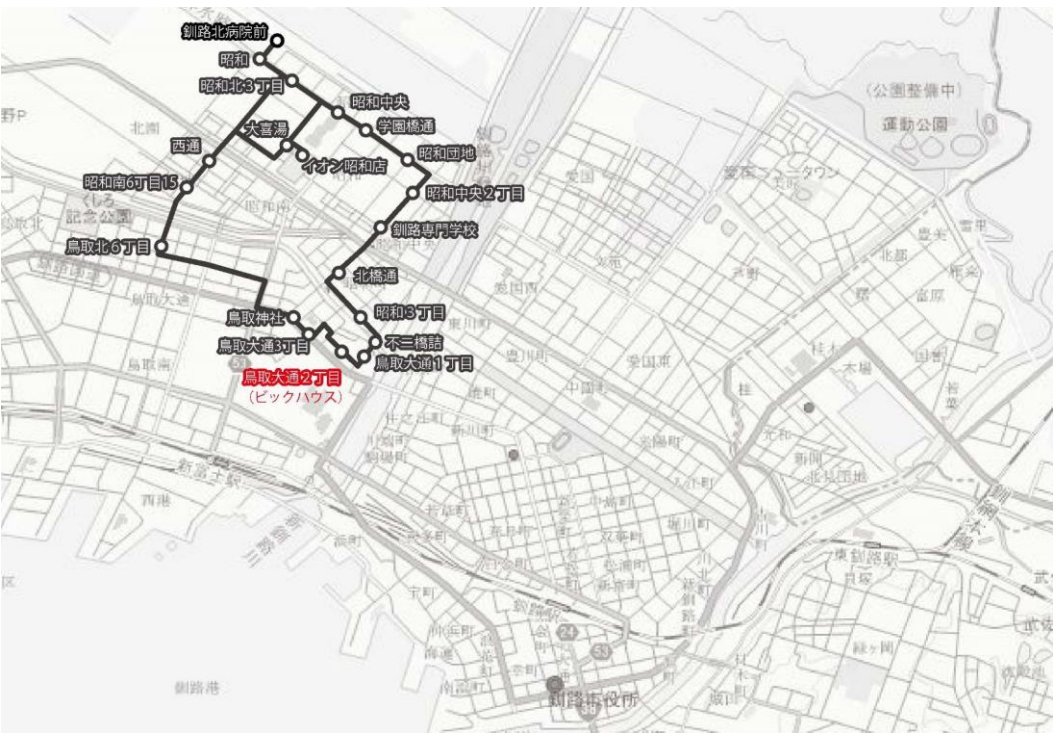
②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
	往	1～3	5	0	1	1～3	2	0	2	-	-	
	復	1～3	6	0	2	1～3	2	0	2	-	-	
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～3	2	-	-	1～3	2	-	-	-	-	
	復	1～3	2	-	-	1～3	1	0	1	-	-	
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～3	2	-	-	1～3	2	-	-	-	-	
	復	1～3	2	-	-	1～3	1	0	1	-	-	

③運賃

				3		往 鳥取大通 2 丁 目
		2		1		
復		1		2		150
3		2		1		
釧路北病院前	イオン昭和店	昭和団地		北橋通		170
				150		
		150		160		
		150		190		
						210
						230

④系統運行図

現況 路線延長 11.2 km	
再編後 路線延長 11.4 km 差 (+0.2 km)	

昭和線（くしろバス・直通）

①運行概要

運行のねらい	【再編の方向性】 昭和線は、前述のとおり支線化していくが、一部の通勤通学時間帯の便を直通運行として継続する。
起点	釧路駅
主な経由地	イオン昭和店
終点	釧路北病院前
運行距離	釧路駅→イオン昭和店→釧路北病院前：11.2 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	4～12 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
		往	3～6	5	1～2	1	1～2	2	1～2	2	-	-
		復	3～6	6	1～2	2	1～2	2	1～2	2	-	-
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
		往	1～2	2	-	-	1～2	2	-	-	-	-
		復	1～2	2	-	-	0	1	1～2	1	-	-
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
		往	1～2	2	-	-	1～2	2	-	-	-	-
		復	1～2	2	-	-	0	1	1～2	1	-	-

③運賃

		3		往 釧路駅前
		1		
復 釧路北病院前	1 3	2 2	日赤通	220
	イオン昭和店	鳥取大通 2 丁 目		210
			210	370
			150	230

④系統運行図

現況

路線延長
11.2 km



阿寒本町線（山花経由・支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 阿寒本町線(山花経由)（釧路駅発着）は運行距離が長く、特に鳥取大通 2 丁目以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 スーパーアークスを乗換拠点として路線を分割し、スーパーアークス、イオン昭和店、釧路北病院を結ぶ循環線を支線とした役割分担により運行を効率化するとともに、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 なお一部の通勤通学時間帯の便は直通運行を継続する。
起点	鳥取大通 2 丁目
主な経由地	山花温泉リフレリフレ
終点	阿寒診療所
運行距離	鳥取大通 2 丁目→山花温泉リフレ→阿寒診療所：30.1 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2 ～ 4 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
	往	1～2	2	-	-	1～2	1	0	1	-	-	
	復	1～2	3	0	2	1～2	1	-	-	-	-	
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-	-	
	復	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-	-	
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
	往	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-	-	
	復	1～2	1	-	-	1～2	1	-	-	-	-	

③運賃

		3		往 鳥取大通 2 丁 目	
		2	1		
復 阿寒診療所	1 3	2 2 山花温泉リフ レ	鶴野		
	迂遠別変電所			220	
				490	700
				720	780
	370	720	990	1120	

現況	
----	--

路線延長
38.5 km



路線延長
30.1 km



阿寒本町線（山花経由・直通）

①運行概要

運行のねらい	【再編の方向性】 阿寒本町線（山花経由）は、前述のとおり支線化していくが、一部の通勤通学時間帯の便を直通運行として継続する。
起点	市立病院
主な経由地	山花
終点	阿寒診療所
運行距離	市立病院→山花→阿寒診療所：38.5 km
運行事業者	阿寒バス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行本数	2～5 便程度
運賃	対距離制タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
		往	1	2	-	-	0	1	1	1	-	-
		復	1～2	3	1～2	2	0	1	-	-	-	-
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
		往	0	1	-	-	0	1	-	-	-	-
		復	0	1	-	-	0	1	-	-	-	-
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
		往	0	1	-	-	0	1	-	-	-	-
		復	0	1	-	-	0	1	-	-	-	-

③運賃

		3		往 市立病院
		2	1	
復	1	2	釧路駅前	
	3	2		
	山花温泉リフレ	鳥取大通2丁目		220
				370
870				
阿寒診療所	720	1120	1270	1270

現況	
----	--

路線延長
38.5 km



①運行概要

②時間帯ごとの運行回数

③運賃

44

④系統運行図

現況

路線延長
14.1 km



再編後

路線延長
14.4 km



(仮) 桂恋三ツ浦線

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 昆布森線（釧路駅発着）は運行距離が長く、白樺ターミナルまでは他の路線が並行して運行し、特に白樺ターミナル以東の区間では利用者が少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 桜ヶ岡通を乗換拠点として路線を分割し、既存の白樺線等を幹線とし、桜ヶ岡通から桂恋、三ツ浦までを支線とした役割分担により、路線バスから乗合タクシーに転換して運行を効率化するとともに、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークの強化を図る。 ※既存の昆布森線（釧路駅発着）は廃止する。
起点	桜ヶ岡通
主な経由地	益浦
終点	三ツ浦
運行距離	桜ヶ岡通→益浦→三ツ浦：区域運行
運行事業者	タクシー事業者（協議調整中）
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	基本ダイヤ設定の上、予約に応じて運行する自由経路ドアツードア型運行
運行本数	4～8 便程度
運賃	ゾーン運賃タイプ

②時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		指定時間帯/運行回数										備考
		新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	
通年	平日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		系統の新設
		往	2～4	5	0	1	1～3	3	1	1	-	-
		復	2～4	6	0	1	1～3	3	1	2	-	-
	土曜日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
		往	2～4	3	-	-	1～3	3	1	-	-	-
		復	2～4	4	-	-	1～3	3	1	1	-	-
	休日	合計		6～8 時台		9～15 時台		16～19 時台		20 時台～		
		往	2～4	3	-	-	1～3	3	1	-	-	-
		復	2～4	4	-	-	1～3	3	1	1	-	-

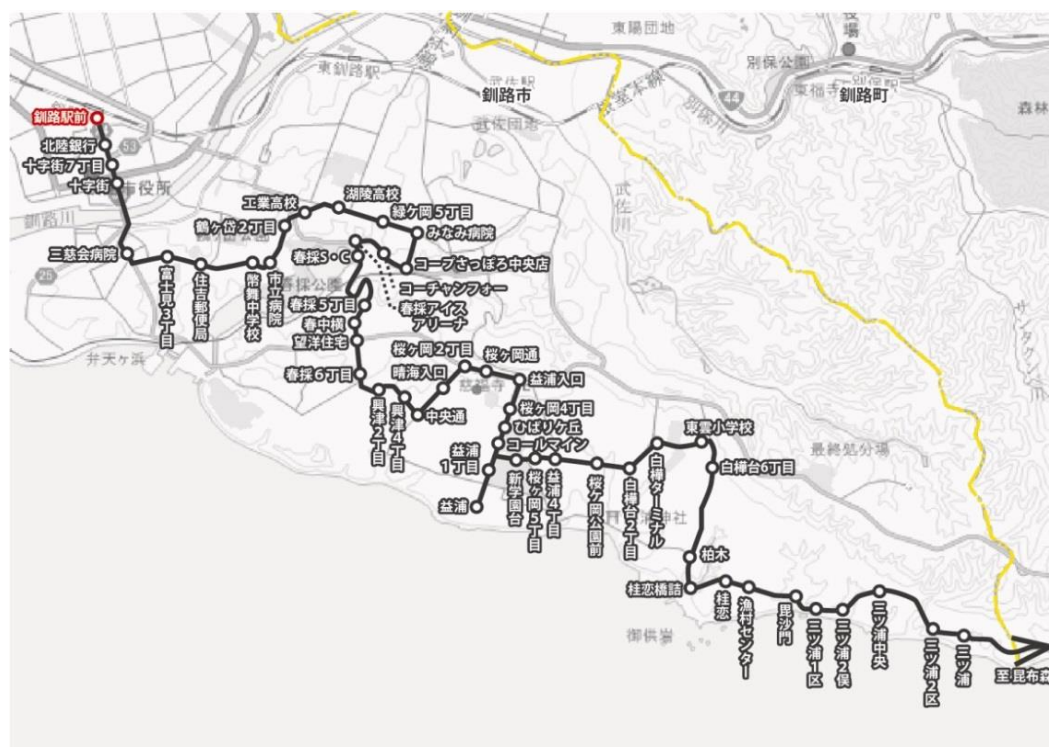
③運賃

三ツ浦	復	1 3	2 2	3 1	往 桜ヶ岡通
昆沙門	1 3	2 2	3 1	往 桜ヶ岡通	益浦 1 丁目
柏木	2 2	3 1	往 桜ヶ岡通	益浦 1 丁目	200
益浦 1 丁目	3 1	往 桜ヶ岡通	益浦 1 丁目	200	400
桜ヶ岡通	往 桜ヶ岡通	益浦 1 丁目	200	400	500

④系統運行図

現況

路線延長
24.6 km



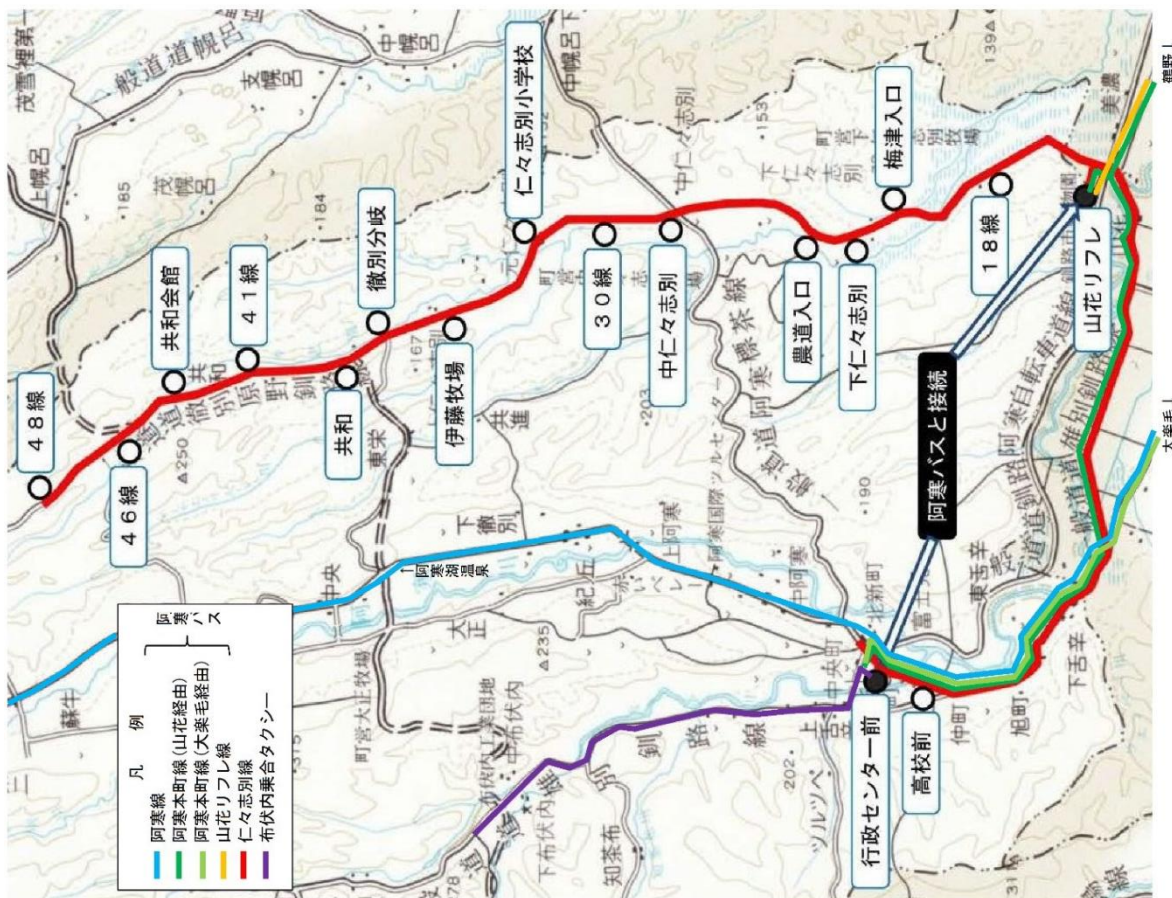
再編後

路線延長
区域運行



4) 阿寒、音別地域の生活交通

① 阿寒地域



現状と課題

仁々志別線は、児童の通学や地域住民の足として運行してきたが、小学校の廃校や人口減少に伴い、近年利用者が大幅に減少していることから、利便性が高く、運行効率の良い持続可能な生活交通を導入することが必要

基本的な方向性

- ### 仁々志別線の 運行計画の変更 令和元年10月～実施予定
- 定時定路線運行から、予約があった場合のみ運行する区域運行型のデマンド型乗合タクシー (事前予約制) へ変更
 - 一部 ドアツードア区間の設置
 - 山花リフレ～高校前のバス停の設置
 - 阿寒バスに乗り換えられるダイヤ設定
 - 土曜日の運行廃止

患者輸送バス・スクールバス 住民利用の検討

布伏内乗合タクシー 現行サービスの継続

仁々志別線のデマンド型乗合タクシー運行計画（案）

基本ルート延長：約60km
市街地内
→ 固定の停留所で乗降

市街地以外
→ ドアツードア

阿寒バスとの重複区間
→ 固定の停留所で乗降

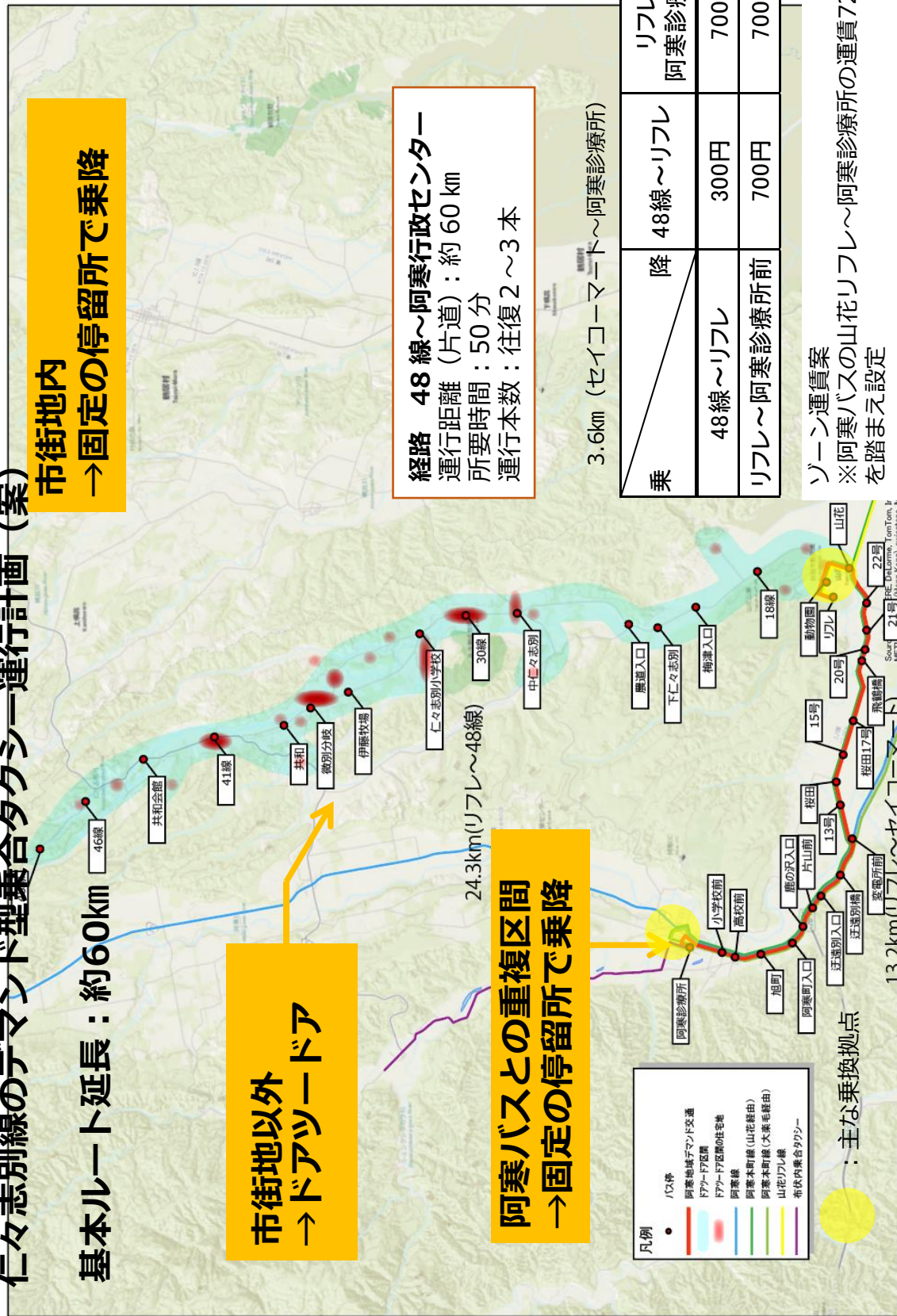
経路 48 線～阿寒行政センター
運行距離（片道）：約 60 km
所要時間：50 分
運行本数：往復 2 ～ 3 本

3.6km（セイコーマート～阿寒診療所）

乗	降	48 線～リフレ	リフレ～
		阿寒診療所前	阿寒診療所前
		300円	700円
		700円	700円

ゾーン運賃案

※阿寒バスの山花リフレ～阿寒診療所の運賃720円を踏まえ設定



現状と課題

平成30年3月に廃線された路線バス（音別線）の代替措置として、平成30年4月よりスクールバス及び患者輸送バスの住民利用の試行運行を行っているが、高齢化の進行に伴い今後ますます公共交通の利用ニーズが高まることから、利便性が高く誰もが使いやすい、運行効率の良い生活交通の導入が必要

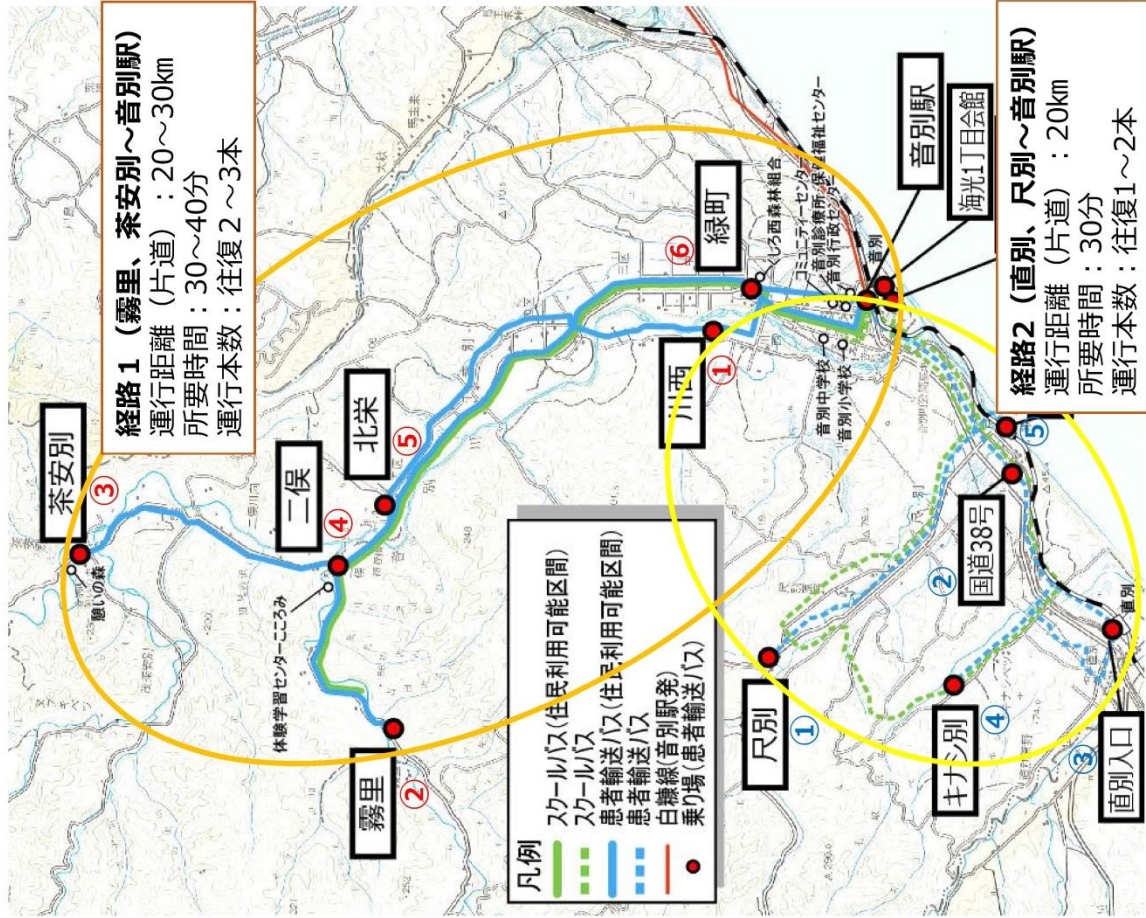
基本的な方向性

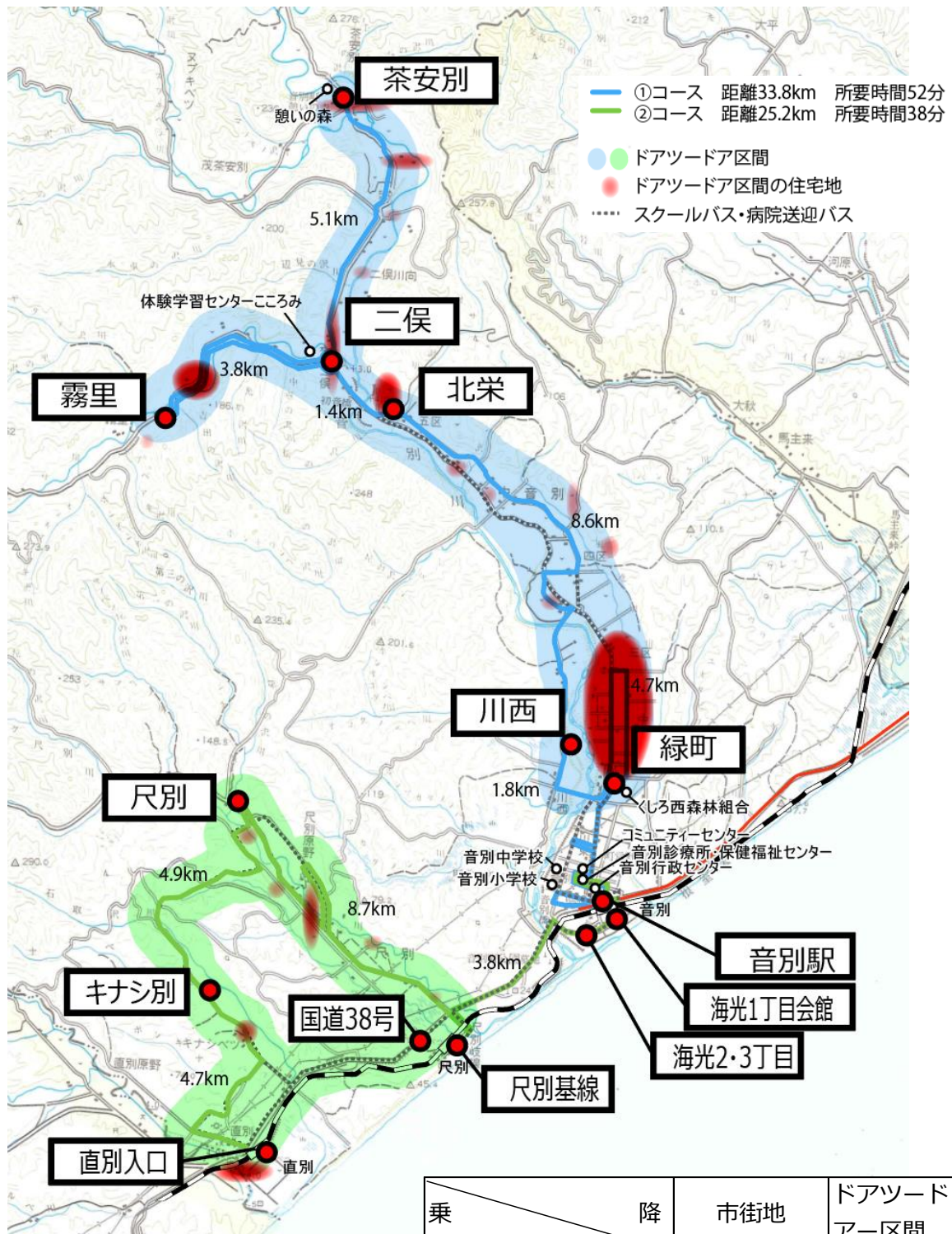
患者輸送バスを生活交通に統合 コミュニティバスを導入 (令和元年10月～実施予定)

- 2 系統を運行
- 所定の基本ダイヤがあり、予約があった場合のみ運行するデマンド交通（市町村有償旅客運送）
- 市街地以外はドアツードア（家の前まで）の運行
- 患者輸送バスのサービスを継続するため診療所で証明書を発行
- JR根室本線、くしろバス（白糠線）に乗り換えられるダイヤ設定

スクールバス 住民利用の継続

②音別地域



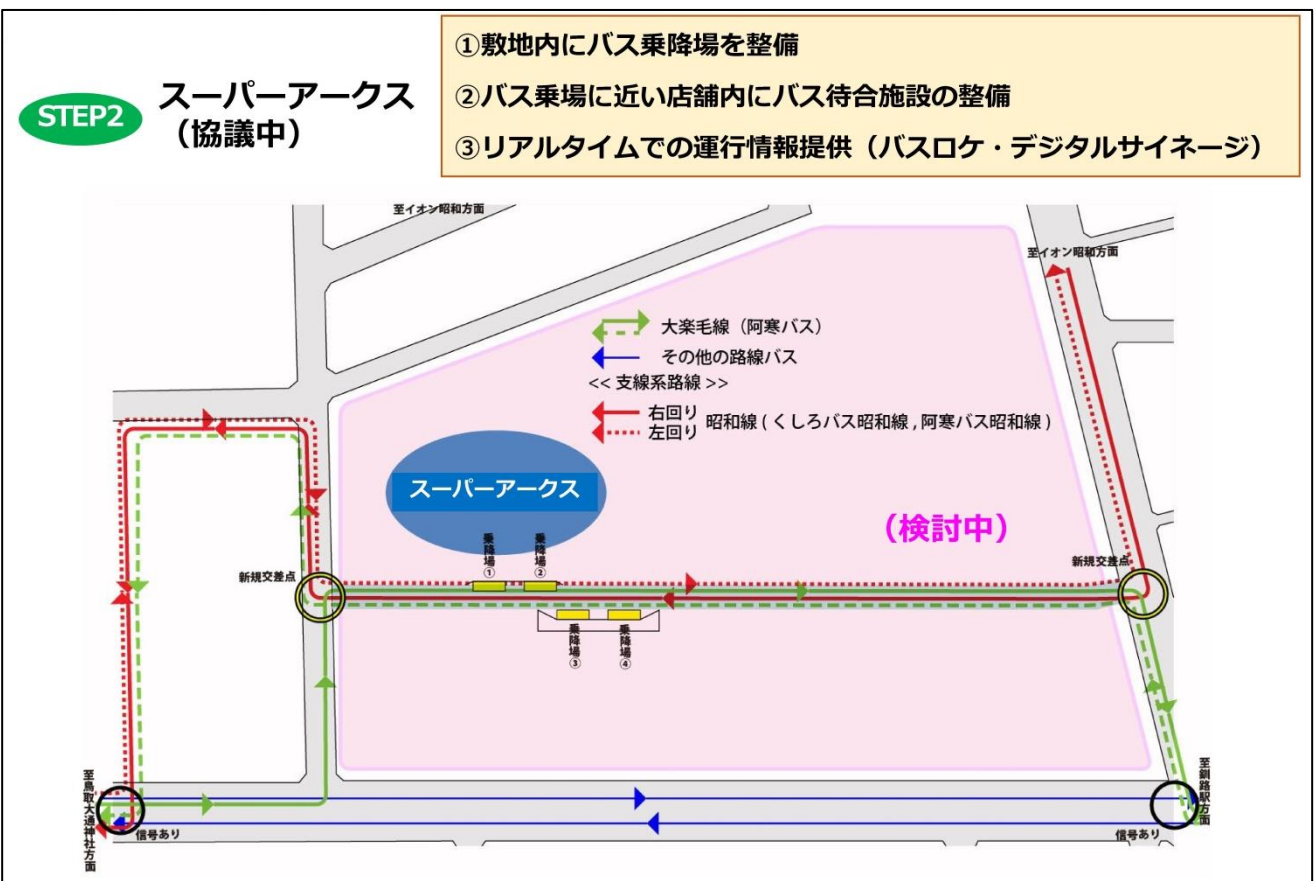


ゾーン運賃案

※阿寒地域の布伏内乗合タクシーを参考に設定

5) 乗換拠点の整備

バス路線数、運行便数、利用者が多く、かつ幹線に位置する都心部や立地適正化計画の拠点等を乗換拠点として位置付け、バス待合環境の整備などにより幹線と域内交通エリアをつなぐハブとしての機能充実を図る。



6) 乗換割引券

支線系路線への再編後、これまでの直通時の運賃より高くなならないよう、幹線系路線と支線系路線の乗り換えに限定して利用できる定額の割引券を発行する。

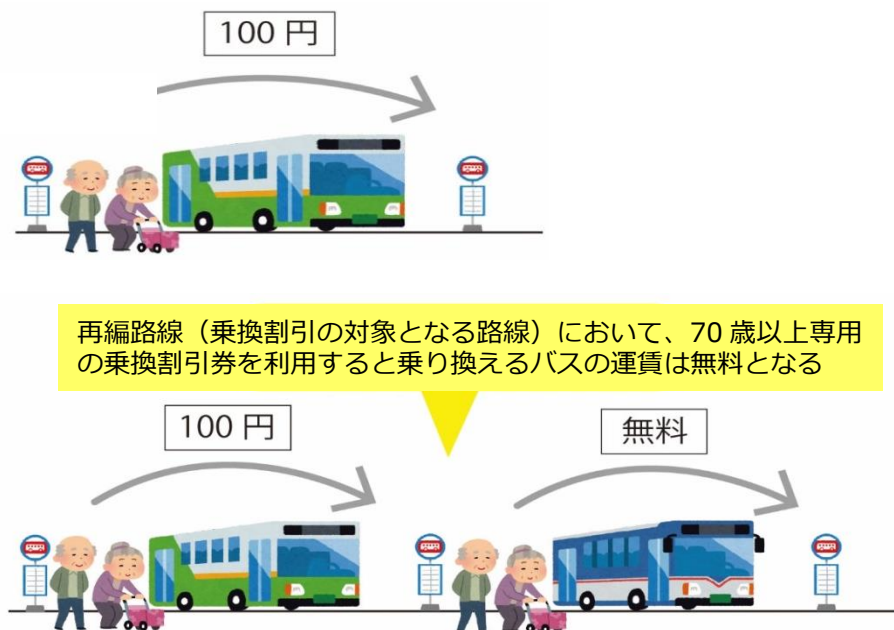
支線系路線を利用して乗換拠点で幹線系路線に乗り換える場合、乗換拠点までの運賃の支払い後、乗り換え申告者に対し割引券をドライバーが手渡すので、乗り換えたバスの運賃は、定額の割引券と必要に応じてその差額を支払うことになる。

7) 70 歳以上の運賃定額化 ※2019 年（令和元年）時点

釧路市では、満 70 歳以上の市民を対象として、2019 年（令和元年）6 月 1 日より、バス利用に対する助成を実施している。

乗車証（500 円で 1 年間有効）の交付を受け、バス降車時に提示することにより、一部区間を除き、1 回あたり 100 円で乗降可能であり、高齢者向け定期券等の購入に対しては、1 か月につき 1,000 円の助成が受けられる。

再編後は、乗換割引の対象となる路線について、70 歳以上専用の乗換割引券を発行し、乗り換えるバスの運賃は無料となるため、再編前と負担は変わらない。



8) バス運賃の「WAON」決済

2018年（平成30年）5月21日より、路線バスの運賃決済として初となる「WAON」決済サービスが、くしろバスの均一運賃路線で導入された。

対象路線：

- たくぼく循環線（くしろバス）

2019年（平成31年）2月4日より、全国初の取組である多区間運賃路線の「WAON」決済サービスが、くしろバス、阿寒バスで導入された。

対象路線：

- イオン線（くしろバス）
- 高専まりも線（阿寒バス）
- 鶴野ニュータウン線（阿寒バス）

網形成計画内で再編事業の取組として位置付けている「円滑な運賃支払方法の推進」の一助として期待される。

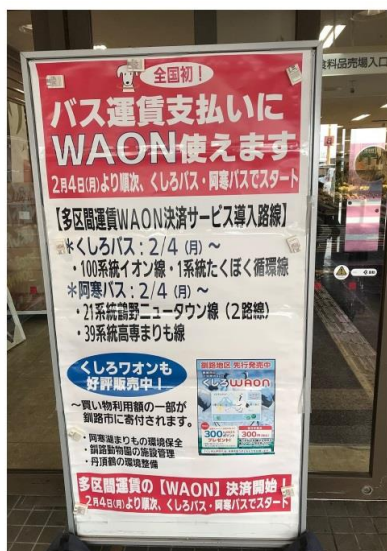


写真.多区間運賃決済の車内設備

【乗車時】



【降車時】



5. 事業の実施予定期間

本計画の実施予定期間は、釧路市地域公共交通網形成計画の終期に合わせて、2019 年度（令和元年度）から 2026 年度（令和 8 年度）までとし、下記のとおり順次段階的な再編事業を行う。

再編実施計画（2019 年度(令和元年度)策定予定）

P

2019 年度（令和元年度）～

STEP1 : 2019 年度（令和元年度）～

D

在来路線バスを活用したイオン昭和店での乗換運行4路線

【再編対象路線】

《乗換拠点：イオン昭和店》

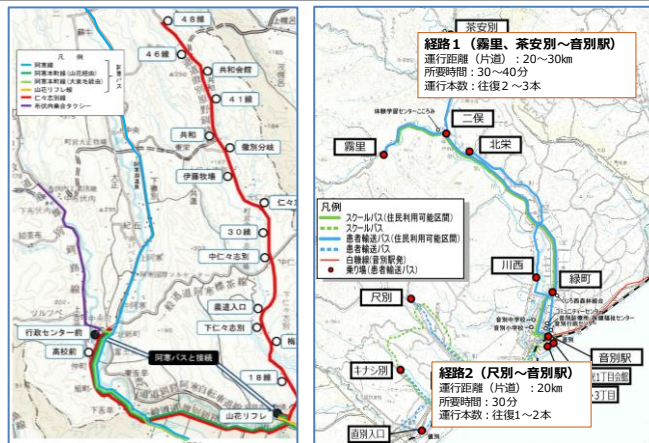
- ・ 鶴野ニュータウン線(阿)
- ・ 山花リフレ線[鶴野経由](阿)
- ・ 山花リフレ線[大楽毛経由](阿)
- ・ 高専まりも線(阿)



阿寒、音別地域の生活交通

【再編対象路線】

- ・ 阿寒仁々志別線（阿寒観光バス）
- ・ 音別市町村有償旅客運送（市）



STEP1

利用実態や利便性、収支率向上等の検証

C

検証結果を踏まえ必要に応じて再編実施計画の見直し検討

A

図.事業実施フロー（1/2）

2020 年度（令和 2 年度～）

STEP2 : 2020 年度（令和 2 年度）以降順次

D

在来路線バスを活用したスーパーアークス、桜ヶ岡通の乗換運行 3 路線を追加

【再編対象路線】（追加）

《乗換拠点：スーパーアークス》

- ・ 昭和線（く）
- ・ 昭和線（阿）
- ・ 阿寒本町線[山花経由]（阿）

《乗換拠点：桜ヶ岡通》

- ・ 昆布森線→（仮）桂恋三ツ浦線（ハイヤー会社）



STEP2

利用実態や利便性、収支率向上等の検証

C

検証結果を踏まえ必要に応じて再編実施計画の見直し検討

A

図.事業実施フロー（2/2）

6. 事業実施に必要な資金の額・調達の方法

本計画に基づき運行する路線の事業費に係る国、道からの補助事業については、地域公共交通確保維持改善事業の地域間幹線系統補助、地域内フィーダー系統補助、北海道生活交通路線維持対策事業費補助を想定している。

7. 事業による効果

本計画の取組により得られる効果と目標値は次のとおりである。

表.事業効果と達成目標

取組内容	事業効果	評価指標	現況 2016 年度 (平成 28 年度)	目標値 2026 年度 (令和 8 年度)	網形成計画で の目標におけ る位置付け
◆ バス路線網の再編 ◆ 市民の主要な目的地へのバス路線の配置 ◆ 住宅地と乗換拠点をつなぐバス路線の配置	路線再編による増便やきめ細かなルート変更等のサービス向上とネットワークの効率化 →運賃収入の増加と運行経費削減による持続可能性の向上	① 市民 1 人当たりのバス利用割合 ② 現状のバスに対する総合的な満足度	7.3% 5.9%	8.0% 15.9%	方針 1 市内拠点を中心とした公共交通軸の活性化と乗換拠点の機能強化による持続可能な公共交通網の形成
◆ 乗換拠点のバス待合環境整備 ◆ 交通拠点等におけるわかりやすい乗場案内等の情報提供・誘導の実施	乗換拠点のバス待ち環境の向上による利用促進 →運賃収入の増加	① 市民 1 人当たりのバス利用割合 ② 現状のバスに対する総合的な満足度	7.3% 5.9%	8.0% 15.9%	
◆ 複数路線の利用を前提とした運賃体系や運行ダイヤの導入 ◆ 市内バス交通の積極的な利用を促す運賃支払い方法の推進	往復利用しやすいダイヤ変更や運賃収受の煩わしさの解消等により、これまでバスを利用しなかった新規利用者の掘り起し、高齢者の外出支援等→運賃収入の増加	① 市民 1 人当たりのバス利用割合	7.3%	8.0%	方針 2 迷わず乗れる、快適に乗れる公共交通の利用環境整備

表.事業効果と達成目標

取組内容	事業効果	評価指標	現況 2016 年度 (平成 28 年度)	目標値 2026 年度 (令和 8 年度)	網形成計画で の目標におけ る位置付け
◆ 生活交通の導入検討 ◆ スクールバスや患者輸送バス等を活用した生活交通の確保	交通不便地域における利便性の高い生活の足の確保により、高齢者の外出支援等を高めるとともに、効率的な運行を確保 →運賃収入の増加と運行経費削減による持続可能性の向上	③ バスの運行経路や行き先に対する満足度	6.1%	16.1%	方針 4 交通不便地域における効率的で利便性の高い生活交通の確保

評価指標に定めた目標値の評価方法は次のとおりである。

表.指標の評価方法

評価指標	評価方法
①市民 1 人当たりのバス利用割合	バスの 1 年間の輸送人員集計や特定日の乗降調査結果から 1 日の利用者数を定め、夜間人口で除したバスの利用率を算定し評価
②現状のバスに対する総合的な満足度	市民アンケートを実施し「現状のバスに対する総合評価」の満足度を評価
③バスの運行経路や行き先に対する満足度	該当地域の住民を対象に市民アンケートを実施し「バスの運行経路や行き先に対する」満足度を評価

2) 地元商店会等と連携したバス待合環境の整備

屋内の待合所

沿道企業から広く協力を求めるとともに、利用者が多いバス停や乗換え利用のあるバス停は、市と企業が連携して取り組む

①沿道企業から広く協力を求めるため、商店やコンビニ等に、バスを気軽に待てる施設やバス停まで行く際に休憩できる施設として協力頂く

- 埼玉県や熊本市で実施している取組で、協力企業の入口にステッカーを貼り、イートインスペースを活用した待合所やトイレの提供、時刻表の掲示や配布を行うサービス

《埼玉県の取組み》

- バスを待つ「バスまちスポット」が2019年3月現在、364施設、バス停まで歩くときに休憩できる「まち愛スポット」が38施設登録
- 登録票に記入し、各市町村へ提出、市町村から県に提出
- バスまちスポットはバス停から概ね50m圏内、まち愛スポットが概ね500m圏内であり、認定されると目印となるステッカーを入口に貼る
- バスの切符の販売、駐輪場や駐車場の貸し出し、観光情報の提供等を行っている施設もある

埼玉県バスまちスポットのステッカー



出典：埼玉県ホームページ

熊本市「バス待ち処」の案内



出典：熊本市ホームページ

交通拠点等における待合環境の整備 / バス待ち環境の整備方針

地域とのパートナーシップを推進し整備促進を図る

- ①屋内のバス待合所の整備を促進する
- ②屋外のバス停は風雪への対応を高める
- ③乗換拠点以外で複数のバスが乗り入れているバス停は乗換えしやすい運行情報等を提供する
- ④バスを待つ乗客の多いバス停から整備を進める
- ⑤広告付きバス待合所の可能性を検討する



【バス待ち環境の検討課題】

- 冬期は積雪によりバス待ち環境が著しく低下することから、風雪を防げるバス待ち環境を整備することが課題であり、各種アンケート結果においても利用促進に対するニーズが高い
- バス待ち環境の整備促進を図るためには、沿道企業等の協力が不可欠



鳥取分岐
バス停

②利用者が多いバス停や乗換え利用のあるバス停は、市と企業が協働で取り組む

- ・ 利用者が多いバス停は、バスを気軽に待てる施設への協力を市が企業に積極的に依頼する
- ・ 乗換え利用の多い病院や大型商業付近のバス停等は、上記と同様に協力を依頼するとともに、市が広告案内等の負担軽減を含めデジタルサイネージ等による乗換え案内の整備促進を図る



上り方向（釧路駅方面）の乗客が多いバス停 ※釧路駅を除く

バスの乗換えが多いバス停

順位	バス停名	人数
1	十字街7丁目	380
2	北陸銀行	309
3	イオン釧路店	248
4	市立病院	246
5	イオンモール釧路昭和	225
6	工業高校	170
7	釧路三慈会病院	168
8	新橋大通6丁目	162
9	釧路空港	156
10	十字街	147
11	湖陵高校	132
12	大曲	117
13	栄町6丁目	114
14	旭町SC	108
15	高専前	93
16	附属小学校	92
17	白樺入口	85
18	日赤病院通	83
19	大森毛分岐	80
20	駅北口	78
21	大森毛駅前	68
22	道銀前	62
23	望洋住宅	62
24	白樺ターミナル	60
25	富士見3丁目	60
26	星が浦大通2丁目	57
27	治水入口	56
28	鳥取大通2丁目	55
29	浦見4丁目	54
30	旭町	53
31	釧路中央郵便局	53
32	星が浦ショッピングセン	52
33	白樺駅前	51
34	労災病院	51
35	愛国電話交換局	50
36	桜ヶ岡通	50
37	鳥取神社前	50

順位	バス停名	人数
1	釧路駅前	412
2	十字街7丁目	61
3	北陸銀行	60
4	市立病院	46
5	イオンモール釧路昭和	44
6	新橋大通6丁目	43
7	イオン釧路店	35
8	大曲	30
9	釧路三慈会病院	25
10	駅北口	24
11	栄町6丁目	24
12	旭町SC	17
13	十字街	15
14	鳥取大通2丁目	13
15	道銀前	13
16	白樺台	13
17	日赤病院通	12

資料：平成28年バス停OD調査・ビンゴ式アンケート調査

9. 今後継続的に検討を進める事業

1. バス路線網再編に向けた方向性

P 3

「幹線系路線と乗換拠点の再編基本パターン」

- ✓ 乗換拠点間『昭和～市立病院』及び、立地適正化計画の進捗に応じて『昭和～桜ヶ岡』を連絡する新規の幹線系2路線の新設を目指す
- ✓ 支線系路線は乗換拠点までの運行とすることで、現況に比べ路線延長が短縮

「乗換拠点候補地の選定」

- 立地適正化計画の拠点
都心部（広域中核拠点）、広域拠点（地域交流拠点）、地区拠点（生活拠点）
- 利用ニーズが高く高規格な運行により需要の掘り起こしが期待できる既存の都市拠点
買い物及び通院目的において市民ニーズが高い場所、在来バス路線の利用が多い施設周辺
- 乗換機能に必要な機能と施設が確保できる場所

幹線系路線と乗換拠点の再編基本パターン（立地適正化計画を踏まえた最終目標）



計画条件の変更（乗換拠点）

- ・ 市立病院建替えの延期（令和8年度までの着工予定）
- ・ 鳥取大通の進捗状況（令和2年度～）

実施方針

できるところから順次運行を実施し、その結果を踏まえ、バス路線網再編計画を段階的に実施

資料：平成30年度第1回 釧路市地域公共交通活性化協議会

10. 網形成計画における都市機能の増進に必要な立地の適正化に関する施策

釧路市では、2016 年度（平成 28 年度）に立地適正化計画を策定し、「歩いて暮らせる便利で持続可能なコンパクトシティ・くしろ」を将来の都市の姿として、コンパクトなまちづくりを進めており、既に一定の都市機能が集積している利便性の高い8つの地区を拠点とし、それぞれの拠点の特性と役割に応じて都市機能誘導区域を設定している。

バス路線の再編に当たっては、この8拠点を踏まえた中で乗換拠点を設定することとしており、広域中核拠点の位置付けを有する都心部から各乗換拠点までの効率的な幹線の形成と、周辺の住宅地等を結ぶ支線の充実を図ることにより、徒歩と公共交通の利用で暮らせるコンパクトなまちづくりを推進する。

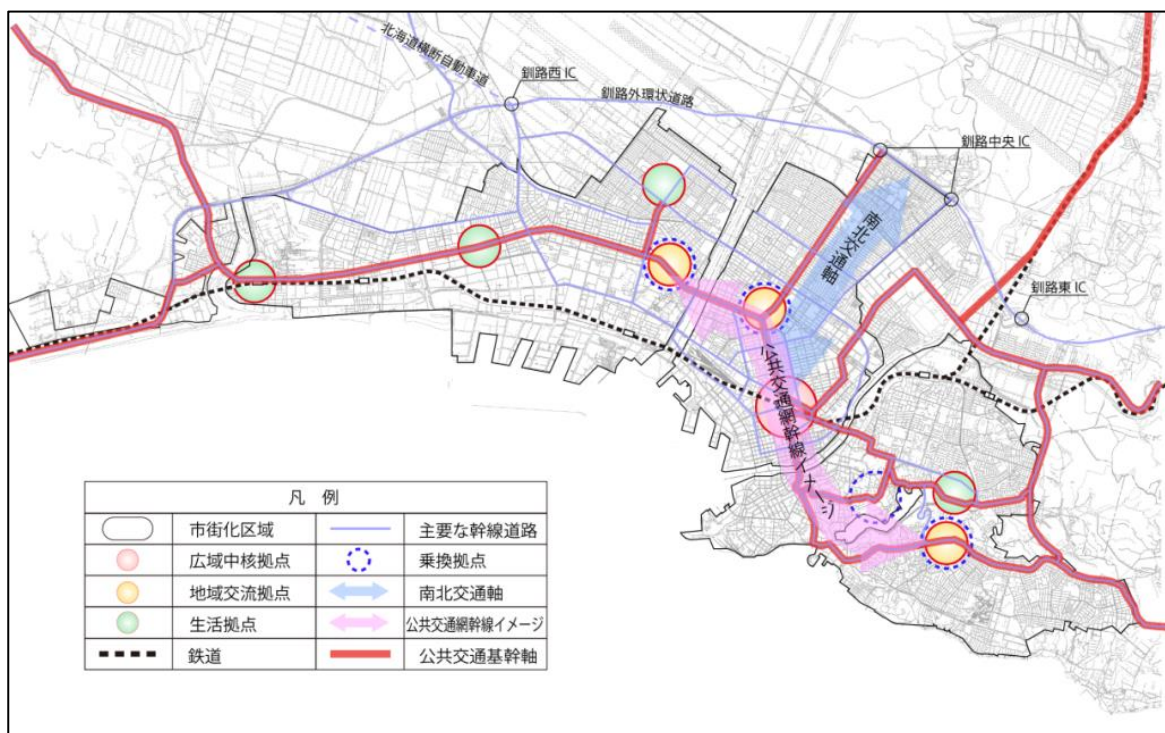


図 釧路市立地適正化計画「釧路市の目指すべき都市の骨格構造」

1) 釧路市が目指す将来都市像

釧路市では、立地適正化計画において以下の4点を重点目標として、これまで整備を進めてきた社会資本の有効活用や今後の公共施設等の適正配置などとともに、効率的な公共交通の再編や都市の再生、居住と都市機能の誘導などを進めることにより、人口減少に対応した持続可能な「コンパクトな都市」を目指している。

○重点目標 1 「便利なまちなか」

複数の拠点が相互に補完しながら、生活に身近な商業・医療・福祉などといった様々な都市機能や居住が集積した魅力ある都市の構造を目指します。

○重点目標 2 「持続できるまちなか」

今後も増加が予想される都市基盤施設や公共施設の維持管理に係る都市経

営コストについては、地域の特性に応じた施設の適正配置や計画的な改修・更新、管理運営の見直しなどにより、全体的な効率化とコストの抑制を目指します。

○重点目標3「行き来しやすいまちなか」

持続可能な公共交通網のあり方を検討し、公共交通による移動の利便性を向上することにより、自家用車に過度に頼ることのない、徒歩と公共交通の利用で暮らせる都市構造を目指します。

○重点目標4「住みたくなるまちなか」

まちなかへの居住の推進・誘導を進めるため、住宅政策や空き家対策などを推進しながら、利便性の高い生活を享受することができ、安全・安心に暮らせる居住環境の形成を目指します。

※「まちなか」とは、都市機能を集約すべき拠点及びその周辺を指す。

2) 誘導区域

居住や都市機能の誘導に当たり、立地適正化計画では、以下のとおり誘導区域の設定を行っている。

市街化区域内に、等しく日常生活に必要な行政サービスが享受できる区域として「一般居住区域」を位置付け、その内側に、それぞれ「居住誘導区域」、「都市機能誘導区域」を設けることとしている。

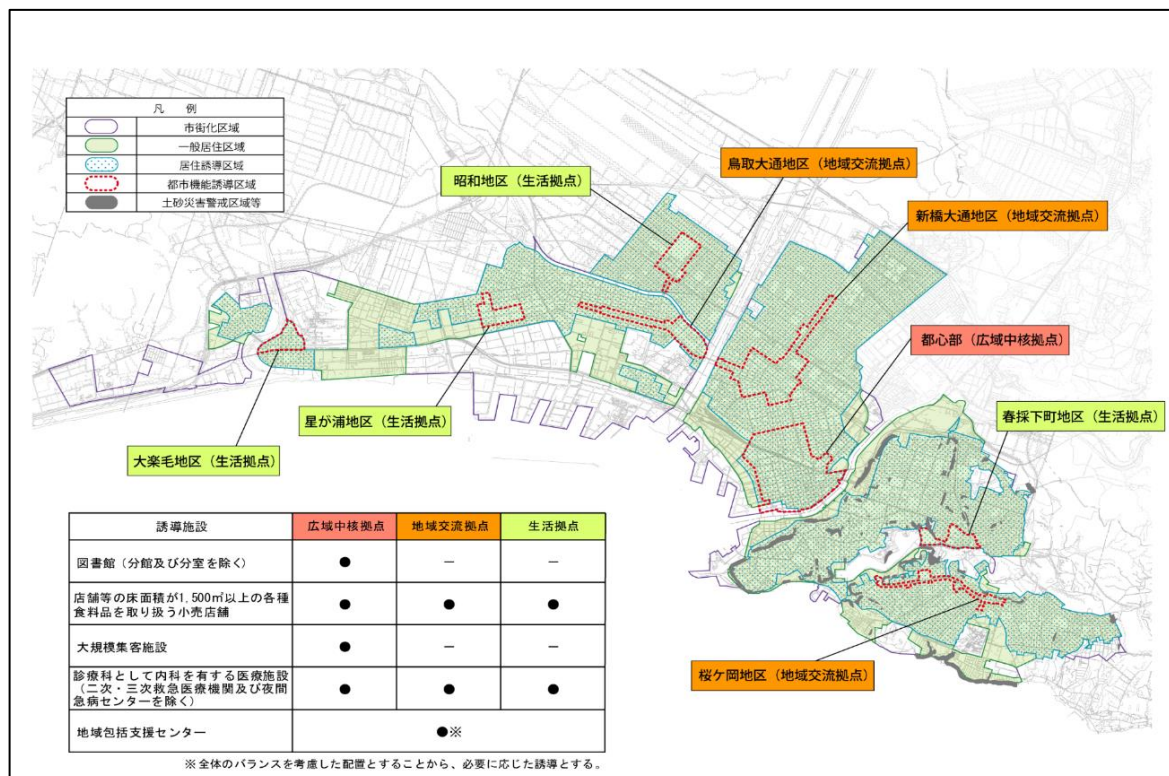


図 釧路市立地適正化計画「誘導区域総括図」

3) 網形成計画における持続可能な都市構造を構築するための施策

立地適正化計画に位置付けた持続可能な都市構造の構築に向けて、網形成計画において位置付けられている施策は以下のとおりである。

網形成計画上の記載箇所	施策	取組内容
＜基本方針 1＞ 市内拠点を中心とした公共交通軸の活性化と乗換拠点の機能強化による持続可能な公共交通網の形成	目指すべき都市構造から適切とされる乗換拠点の機能を強化し、拠点間の連携促進及び運行の効率化を図る	わかりやすく、効率よく拠点間を連絡するバス路線網への再編
		乗換拠点の機能充実
		市内拠点等を結ぶ地域や利用者ニーズに応じた効果的なバス運行の実施